

九州保健福祉大学



中期目標・中期計画書

(平成 28 年度～平成 30 年度)

保健医療福祉のオンリーワン大学を目指して

九州保健福祉大学中期目標・中期計画

(平成28年4月1日～平成31年3月31日)

学長 迫田 隅 男

平成11年4月、宮崎県延岡市に社会福祉学部と保健科学部の2学部6学科で開学した九州保健福祉大学は、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」という建学の理念のもと、全力で教育・研究活動に取り組んで参りました。また、時代や社会のニーズに応え得る人材養成を目的とした教育課程を開設してきた結果、現在では4学部10学科に大学院を擁する総合大学に発展しております。

一方で、18歳人口の減少をはじめとする現在の社会情勢のなかで、地方私大を取り巻く環境は、今後ますます厳しくなることが予想されております。

本学は、この逆境をむしろ好機ととらえ、これまで以上にキラリと光る九州保健福祉大学ならではの特色を磨き、地方におけるオンリーワンの大学として、全国に発信して参りたいと思います。その具体的な推進を図るため、この度、「中期目標・中期計画」を策定し、本年4月から3年間をかけて取り組むことにいたしました。

「キラリと光るオンリーワン大学」と言っても、今、ここにいる学生、教職員、さらには、卒業生がそれぞれの立場でキラリと光り輝いていくことに他なりません。したがって、中期目標・中期計画の中でも、「教育力」すなわち、学生教育において、高度な専門知識と人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけた人材を養成することに重点をおいて取り組んで参りたいと思います。

「中期目標・中期計画」を契機に、教職員一人ひとりと同じ目的意識を共有し、一人ひとりが主体者として、どこまでも明るく、どこまでも仲良く、力を合わせて、全国に知れ渡る「九州保健福祉大学」を築いて参ります。

目 次

まえがき

九州保健福祉大学中期目標・中期計画の概要	1
----------------------	---

九州保健福祉大学（大学全体）	6
----------------	---

社会福祉学部

スポーツ健康福祉学科	8
------------	---

臨床福祉学科	13
--------	----

子ども保育福祉学科	16
-----------	----

保健科学部

作業療法学科	19
--------	----

言語聴覚療法学科	22
----------	----

視機能療法学科	25
---------	----

臨床工学科	30
-------	----

薬学部

薬学科	33
-----	----

動物生命薬科学科	36
----------	----

生命医科学部

生命医科学科	39
--------	----

建学の理念

「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」

学科運営においても、九保大として整合性がとれた教育目標が求められる。

九保大の教育目標（学生の目線、教員の目線の2つ）

全教職員の教育に対するベクトルを一致させる必要がある。

【どんな卒業生を育てたいのか？】

平成24年中央教育審議会（第82回）において、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成できないとして、教員と学生が意志疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出してゆく能動的学修（アクティブラーニング）への転換を求めている」。本学においても、中央教育審議会の答申にそった教育への転換が必要である。そこで、建学の理念に基づき、全学科共通の教育目標を設定する。

【全学科共通の目標設定】教員目線

本学の建学理念および中央教育審議会の答申から：

入学後の基礎科目から卒業研究までを通して自ら考える力を高め、学生自身の能力を最大限に引き出し、社会から高く評価される人材に育てる。

【全学科共通の目標設定】学生目線

本学では、国家試験合格等の専門資格の取得そして「自ら考える力を高め、高度な専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）」を身に着ける。

【基本戦略の設定】

九州保健福祉大学は、学生の基礎・専門学力そして自ら考える力を高めることにより社会において高く評価される有為な人材を輩出し、高校生からは是非進学したいと思われる大学としなければならない。そこで、基本戦略は「一人でも多く卒業させ、一人でも多く国家資格等を取得させる」ことを目指す。

なお、九州保健福祉大学では、各学科の意識の共有のために、教員評価システムも既に個人評価からチーム評価に比重を移している。

【教育力において魅力ある大学であるための基本戦術の設定】

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成できない。そこで、授業の一部にアクティブラーニングを積極的に取り入れることを推進する。ただし、本学は、国家資格を目指す学科が多く、受け身であっても膨大な知識の集積を可能とする系統講義も不可欠である。従って、今回のアクティブラーニングの推進は、従来の系統講義を否定するものではない。ただ系統講義の中でも、学生に討論の時間（考える時間）を与え、その結果を講義時間内に学生の代表に発表させればアクティブラーニングとなり、それだけでも十分教育効果もたらされるとされている。今回、本学でのアクティブラーニングにより学生の考える力を高める教科として、全学科において卒業研究を指定しそのレベルアップを目指す。学生の卒業研究における指導については、平成27年度第3回FD研修会「パフォーマンス評価とループリック」を開催しており、教員の共通認識が進んでいる。また、卒業研究のみならず基礎・専門教育の理解には国語力が求められるため、低学年での国語教育の取り組みが求められる。国語教育については、e-learningシステムの積極的活用を全学で実施する。

【日本教育再生実行会議が考える学力の3要素】

- ① 十分な知識・技能
- ② それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力
- ③ これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

【学生の考える力を高めるには、どのような目標を考える？】

学生の能力を最大限に引き出し引き伸ばすことにより、社会から高く評価される人材とするために

- ・国家資格等の取得をサポート
- ・「学生の考える力を高める」ことにより、単に資格の取得を目標にすることなく、卒業後に受け身ではなく能動的に「相手の幸せをプロデュースすることができる」「職場の改善などを提案できる」などにより同僚から信頼され、頼られる人材となる。

学生の考える力（論理的思考能力）を高め、さらに評価する教科には、全学科共通の卒業研究が相応しいと思われる。

- ・卒業研究は、自ら研究課題を探し、自ら解を見出すアクティブラーニングである。
- ・最終学年での全学科の卒業研究のレベルアップを目指す。
- ・全学科での適正な卒業研究の指導および適正な評価の実施
- ・考える力（論理的思考力）の基礎は、国語力であるため、入学時点からの国語教育の実施
- ・受身の学習から、能動的な学習への転換
 - 習慣づけのため、アクティブラーニングの導入（e-learning）
 - 授業等の内容の改革

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画

九保大を卒業したらどんな人材となれるのか。九保大全体として整合性がとれた教育目標とするため、学科の「ビジョン（教育目標）」および「学科からのメッセージ」は、建学の理念に基づきスタイルを統一した。

【大学全体ビジョン（教育目標）】

みんなの幸せをプロデュースできるあなたの能力を最大限に引きだす 九州保健福祉大学
(大学からのメッセージ)

みなさんには、それぞれ素晴らしい能力が備わっています。九州保健福祉大学は、あなたのその能力を最大限に引き出します。九州保健福祉大学は、入学後の基礎科目から卒業研究までを通して自ら考える力を高め、あなた自身があなたの能力を最大限に引き出すことをサポートしていきます。卒業後、みんなの幸せをプロデュースできる社会人となり、社会から高く評価される人材となってください。みなさんが自分の能力を最大限に引き出すことができれば、きっと一人ひとりにとって素晴らしい未来が開けます。

【学科ビジョン（教育目標）】

スポーツ健康福祉学科

九保大だから学べる「スポーツで健康に生きる幸せ」をプロデュースできる能力を身につける

(学科からのメッセージ)

スポーツ健康福祉学科の教育は、健康長寿社会の実現を目指して、スポーツ・健康・福祉そして東洋医学の視点からアプローチします。本学科には「スポーツ健康福祉」と「鍼灸健康福祉」の2つのコースがあります。「スポーツ健康福祉コース」では、スポーツを基軸に健康、福祉、教育、コンディショニング等の専門知識を有する健康運動指導士やアスレティックトレーナー、保健体育教員、社会福祉士等を養成します。「鍼灸健康福祉コース」では、スポーツとともに、健康、福祉等の専門知識を有する鍼灸師を養成します。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、各コースの専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。

臨床福祉学科

九保大だから学べる「人の生き方を支える幸せ」をプロデュースできる能力を身につける

(学科からのメッセージ)

臨床福祉学科の教育には、誰もが自分らしさを発揮し安心して暮らせる社会の実現を目指して、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士を育成する「臨床福祉」とカウンセリングの専門性を有する心理・福祉の専門職を育成する「臨床心理」の2つの専攻があります。現在社会では、悩みや問題を抱える方の生活を支える福祉学と心を支える心理学の専門的な知識と技術を備えた人材がますます必要となっています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、専門知識に加えて人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。

子ども保育福祉学科

九保大だから学べる「子どもを育てる幸せ」をプロデュースできる能力を身につける

(学科からのメッセージ)

子ども保育福祉学科の教育目標は、保育士、幼稚園教諭、社会福祉士等の国家資格取得のもっと先にあります。近年、核家族化による保護者の子育て負担の増大などを背景に、少子化が進行し、社会全体での子育て支援が大きな課題となっています。だからこそ、乳幼児期の心身ともに調和のとれた“全人的”な発育成長を支えることができる有能な人材が求められています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、乳幼児の保育・教育の専門知識に加えて、人々の子どもを育てる幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。

作業療法学科

九保大だから学べる「たとえ障害があったとしても自分らしく生きていくことの幸せ」をプロデュースできる能力を身につける

(学科からのメッセージ)

作業療法学科の教育目標は、作業療法士国家試験合格のもと先にあります。少子高齢化に伴う介護の問題、うつ病による自殺、障害者の雇用問題など、単に病気や障害への対応だけでは自分らしく生きていく事が難しいほど、生活困難の様が多様化しています。作業療法はどのような状況に置かれても、常に心と身体のバランスに目を向け、その人らしく生きていく事を医療・福祉の側面から支えていきます。本学では、入学後の医学の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、患者さんに対し「病気や障害がある人も自分らしく輝いて生きていくこと」の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。

言語聴覚療法学科

九保大だから学べる「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力を身につける

(学科からのメッセージ)

言語聴覚療法学科の教育目標は、言語聴覚士国家試験合格のもと先にあります。現在、脳梗塞などでコミュニケーションが取れない、食事ができない高齢者や、コミュニケーション上のやり取りが不得意なお子さんが増えています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、「コミュニケーションができる」「口から食べられる」など、言語聴覚士として幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。

視機能療法学科

九保大だから学べる「みる・みえる幸せ」をプロデュースできる能力を身につける

(学科からのメッセージ)

視機能療法学科の教育目標は、視能訓練士国家試験合格のもと先にあります。現在、高齢化社会が進み視力障害や眼疾患で悩む患者さんが多くなっています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、高度な眼科医療を支える専門知識に加えて、患者さんの「みる」「みえる」幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。

臨床工学科

九保大だから学べる「高度なチーム医療」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につける

(学科からのメッセージ)

臨床工学科の教育目標は、臨床工学技士国家試験合格のもと先にあります。医療の高度化が進み、多くの医療機器が臨床で使用されています。いまや医療現場には、工学知識を持つ臨床工学技士がますます重要になっています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、チーム医療の一員として医師の指示のもとで生命維持管理装置の操作や、自らの判断で医療機器の保守・管理を行うなど、高度なチーム医療を支えるのみならず、患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。また本学は、タイを中心としたASEAN諸国の大学ならびに病院との交流があり、毎年、臨床工学科の施設を中心とした研修を受け入れております。そのため海外の方との交流を通じ、グローバルな視点も養うことができます。

薬学科

九保大だから学べる「適正で安全な薬物療法」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につける

(学科からのメッセージ)

薬学科の教育目標は、薬剤師国家試験合格のもと先にあります。現在、薬物療法の高度化により、チーム医療の中で「薬の専門家」としての薬剤師の重要性がますます高まっています。また、現在の薬剤師は患者さんのフィジカルアセスメント（実際に患者さんの身体に触れながら、薬の効果や副作用の早期発見を行うこと）などを実施して最良の薬物療法を医師に提案することが求められています。本学では、入学後の基礎科目から5,6年次の卒業研究までを通して、広い視野で自ら考え、適正で安全な薬物療法を支え、患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。

動物生命薬科学科

九保大だから学べる「薬に強い動物・動物性食品の専門家」として人々の幸せをプロデュースできる能力を身につける

(学科からのメッセージ)

動物生命薬科学科の教育目標は、動物看護師統一認定試験（将来の国家試験）合格や実験動物1級技術者認定試験合格のもと先にあります。現在、“地方創生”に至る国策の一つとして、産業動物や食の安全とそれに基づく関連産業の発展が求められています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、動物、医薬品および動物性食品に関連した「薬に強い家畜防疫員」、「薬に強い実験動物技術者」、「動物・薬・食に詳しい学芸員」、「食品衛生管理者・食品衛生監視員」として活躍できる専門知識を習得すると共に、さらに人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。

生命医科学科

九保大だから学べる「がん診断・医学検査のスペシャリスト」として患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につける

(学科からのメッセージ)

生命医科学科の教育目標は、細胞検査士試験や臨床検査技師国家試験合格のもと先にあります。本学科は、高度な医学的知識・技術を修得し医学研究および医療現場で貢献できる人材を養成します。がんの早期発見に大きな役割をはたす細胞検査士は、在学中の資格取得を目指します。臨床検査技師は、血液検査、分析化学検査、免疫検査、血液型・輸血検査、微生物検査、遺伝子検査、病理検査、さらに心電図、超音波、他の生理機能検査を病院などで行う医療専門職です。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、高度なチーム医療を支える専門知識および高度な技術を駆使して患者さん、患者さんのご家族の幸せをプロデュースできる能力(知識・技能・思考力・態度)を身につけることができます。

ビジョン (教育目標)	みんなの幸せをプロデュースできるあなたの能力を最大限に引きだす。	
大学からの メッセージ	みなさんには、それぞれ素晴らしい能力が備わっています。九州保健福祉大学は、あなたのその能力を最大限に引き出します。九州保健福祉大学は、入学後の基礎科目から卒業研究までを通して自ら考える力を高め、あなた自身があなたの能力を最大限に引き出すことをサポートしていきます。卒業後、みんなの幸せをプロデュースできる社会人となり、社会から高く評価される人材となってください。みなさんが自分の能力を最大限に引き出すことができれば、きっと一人ひとりにとって素晴らしい未来が開けます。	
教育力 (ブランドカ)	<p style="text-align: center;">全学共通目標</p> <p>【全学科共通の目標設定】</p> <p>学生目線： 本学では、国家試験合格等の専門資格の取得そして「自ら考える力を高め、高度な専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）」を身につける。</p> <p>教員目線： 入学後の基礎科目から卒業研究までを通して自ら考える力を高め、学生自身の能力を最大限に引き出し、社会から高く評価される人材に育てる。</p>	<p style="text-align: center;">全学共通対策</p> <p>【基本戦略の設定】 本学教育の基本戦略は、学生の基礎・専門学力そして自ら考える力を高めることにより社会において高く評価される有為な人材を輩出し、高校生から是非進学したいと思われる大学とする。そこで、「一人でも多く卒業させ、一人でも多く国家資格等を取得させる」ことを目指す。</p> <p>【基本戦術の設定】 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成できない。そこで、授業の一部にアクティブラーニングを積極的に取り入れることを推進する。今回のアクティブラーニングの推進は、従来の系統講義を否定するものではない。ただ系統講義の中で、学生に討論の時間（考える時間）を与え、その結果を講義時間内に学生の代表に発表させるだけでもアクティブラーニングとなる。今回、アクティブラーニングにより学生の考える力を高める教科として、全学科において卒業研究のレベルアップを目指す。また、卒業研究のみならず基礎・専門教育の理解には国語力が求められるため、低学年での国語教育の取り組みが求められる。国語教育については、e-learning システムの積極的活用を全学で実施する。</p>
	<p>全学共通目標</p> <p>【学生自ら考える力のアップ】 アクティブラーニング導入必須科目の指定</p> <p>【学生の基礎学力のアップ】 e-learning の活用</p>	<p>全学共通（◆：全学科必須の取り組み ◇：学科の判断に委ねる） 以下の各項目に対し、学科内で実施責任者を指名する。（重複・複数可）</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策：全学共通科目として卒業研究を指定する。】</p> <p>アウトカム： 「学生自ら考える力を高め、高度な専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生がパフォーマンスを発揮しうる学習方法と環境 「学習方法」：アクティブラーニング 「環境」：卒業研究 ○ 学生がそのアウトカムに到達したか否かを評価する方法と基準の決定 評価の観点：問題点を見出し、その解を自ら見出し、社会にアピールできるかどうか。 ○ コンピテンシー（アウトカムの実践に必要な具体的な「行為」） （学科内での卒論の指導方法および評価のばらつきをなくし、学生の考える力を高める。） ◆ 卒論の評価用ルーブリック表を各学部（学科）で作成する。 ◆ 評価用ルーブリックに基づき、卒業研究指導マニュアルを作成する。 ◆ 各学部において、学生の卒業研究発表会を義務付ける。 ◆ 各学科において卒業研究以外にもアクティブラーニング導入科目を増やす。 <p>【基礎国語力増進への対策】 e-learning を全学科で導入 卒業研究のみならず基礎・専門教育の理解には国語力が求められるため、低学年での国語教育の取り組みが求められる。国語教育については、e-learning システムの積極的活用を全学で実施する。</p>

	<p>【国家試験の合格率アップ】 目標：全国トップ 義務：大学全国平均よりも必ず上位！</p> <p>【学科教員の教育力アップ】 ・学科の教育目標を達成するための、教員組織の構築 ・教員の質の担保</p> <p>【教育施設のレベルアップ】</p> <p>【就職率のアップ】</p> <p>【学生生活サポートと向上】</p> <p>【学生指導力の向上】</p> <p>【社会人としてのマナー向上】</p> <p>【大学の魅力発信】</p>	<p>◆ 全学科で e-learning 導入（国語）具体的な取り組み案を作成する。 講義の中での使用を推奨</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】</p> <p>◆ 専門教育を理解させるための基礎学力向上のための取り組み案を作成する。 ◇ 学科によっては、e-learning（数学や英語）の活用も推奨</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】</p> <p>◆ 各学科において、前年度の実績を基にして次年度の国家試験対策取り組み案を作成する。 ◆ 各学科の国家試験対策責任者からの実施した取り組みと結果を分析した報告書を作成する。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 学科の教育目標を達成するための、パワーある教員組織の構築</p> <p>◆ 中堅教員には博士号の取得を義務付ける。</p> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p> <p>◇ 文部科学省の補助金等の情報を集めると共に、ラーニングコモンズの設置など、全学的な施設整備も提案</p> <p>【就職率アップへの対策】</p> <p>◇ 学科の就職率アップへの具体的な取り組み案の作成</p> <p>【学生生活サポート対策】</p> <p>◇ 学科の学生生活サポートのための具体的な取り組み案の作成</p> <p>【学生指導力の向上】</p> <p>◇ 基礎学力を上げ、学力不足を解消する。 ◇ 学生の適正に応じた指導を行う。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】</p> <p>◆ 学生が社会人となった時、きちんと挨拶ができるよう、教員から学生に挨拶する運動を推進する。</p> <p>【大学の魅力発信】</p> <p>◆ 大学、学部、学科の魅力発信のため、短期的および中期的な具体的な取り組み案を作成する。</p>
--	--	--

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「スポーツで健康に生きる幸せ」をプロデュースできる能力を身につける
学科からの メッセージ	<p>スポーツ健康福祉学科の教育は、健康長寿社会の実現を目指して、スポーツ・健康・福祉そして東洋医学の視点からアプローチします。本学科には「スポーツ健康福祉」と「鍼灸健康福祉」の2つのコースがあります。「スポーツ健康福祉コース」では、スポーツを基軸に健康、福祉、教育、コンディショニング等の専門知識を有する健康運動指導士やアスレティックトレーナー、保健体育教員、社会福祉士等を養成します。「鍼灸健康福祉コース」では、スポーツとともに、健康、福祉等の専門知識を有する鍼灸師を養成します。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、各コースの専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。</p>
教育力 (ブランドカ)	<p>(H28)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究に関する評価の検討検証を行う。現在行われているゼミ担当教員の評価について聞き取りを行い、評価基準の明確化を図り、学科共通の評価基準を作成。来年度導入可能かを検討議論する。 学科内の卒業研究発表会の設置が可能か模索する。時期、人数、場所など制約となる項目を挙げ、解決可能か検討を行う。 <p>【基礎国語力増進への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的な e-learning の活用を学生に推奨する。 講義科目における e-learning 導入の可能性を検討する。 e-learning 実施による学生の国語力の変化について調査、検討する。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存のリメディアル教育の内容の検証を行う。 e-learning の導入可能な科目や時間数、学習内容の検討を行う。 <p>【国家試験合格率アップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生から4年生にかけて、国家試験対策のロードマップを作成する。加えて、ロードマップに沿って運営しながら、実施可能か検証する。 1年次から国家試験を受けることへの学習支援・意識付けを行う。特に国家試験科目では、過去の国家試験問題を教材として積極的に用いる。 国家試験・資格試験関連科目の単位認定に、可能な限り国家試験・資格試験の認定基準を盛り込み、それを各教員間で共有する。 これまで行われている国家試験対策（模試、対策セミナー）を継続しつつ、その内容を踏まえ、学生の国家試験・資格取得の意識付けや、国家試験対策の自己学習を習慣化できるよう指導を行う。 模擬試験、試験直前対策の時間を確保する。 各国家試験・資格試験の受験希望者は2年次までに受験の意思を確認できるよう、個別に指導を行う。 <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の質を高める。 <ul style="list-style-type: none"> すでに大学で実施されている教員相互の授業参観の推進を行う。 教育方法改善のための「研究授業システム」を構築する。研究授業とは、各教員がもともとその教員・教科の特徴が出る講義日程を提示し、その講義を聴講するシステムをいう。研究授業は常勤のみではなく、非常勤講師・兼任講師も含むことで、教育の質を担保するとともに、資格取得に向けた教員間の相互理解を深めることが目的である。(1)双方向型・対話型授業の指導法 (2)実習・演習の指導法 (3)ゼミの指導法等。 学生からの授業評価を受けて、教員が自らの授業の問題点を把握し、改善するための工夫について学科内で発表、検討を行う。 学部 FD（教育部門）との連携を図り、研修の成果を教育に反映させる。 研究力により裏付けされた授業を構築・展開する。 <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費の獲得および学位取得、論文執筆、学会への参加を学科長が促す。 その他 <ul style="list-style-type: none"> 各年度に実施した内容の結果・成果について学科で検討する。 <p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が国家試験の勉強などを自由に行うことができる自習室確保の検討。

【就職率アップへの対策】

- ・就職率 100%を維持する。
- ・キャリアサポートセンター、およびキャリア支援室の積極的な活用を促す。
- ・インターンシップへの参加を促す。
- ・県外を含め、就職先の情報をキャリアサポートセンターと共有する。
- ・卒業生に対して就業に関する支援を継続して行う。

【学生生活サポート対策】

- ・学生に対してカウンセリング教育を実施する。
- ・学内のカウンセリングに関する状況を共有する。
- ・学生の状況を共有する。(学科会議 月 1 回)
- ・オフィスアワーの活用を促す。
- ・各種学科行事(茶話会 合同交流会 運動会 宿泊研修等)を開催し、学生の状況の把握に努める。

【学生指導力の向上】

- ・基礎学力を上げ、学力不足を解消する。
- ・チューター制度を活用し、学生の単位修得状況を把握する。
- ・学生の状況を共有する。(学科会議 月 1 回)
- ・学生生活状況を把握し、必要に応じて保護者への連絡を行う。

【社会人としてのマナー対策】

- ・教員から積極的に挨拶を行う。
- ・学科で行われる様々なイベントを通して、コミュニケーション能力を身につけ、人と関わるときに必要なマナーについて学ぶ機会にする。
- ・事前教育も含めて学外実習を通して、社会人としてのマナーを身につける。
- ・学生のボランティア活動の参加を促す。

【学科の魅力発信】

- 高校生にとって“進学したくなる学科”を創造する。
- ・魅力的かつ安定的なスポーツ特待生制度を確立する。
- ・学生課と協力し、部活動の活性化策を策定する。
- ・在学生の声に耳を傾け、学科をよりよくするためのアイデアを共に考え、可能なものから実施する。
- 広報活動を状況に応じて工夫し、入試広報と協力して実施する。
- ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、卒業後(出口)の情報提供が行えるように準備する。
- ・ホームページの到着情報を活用し、より速い情報提供を行うとともに、学科の露出を増やす。
- ・ブログを定期的に更新し、学科の活性の高さをアピールする。
- ・出張講義を積極的かつ効果的に活用する。
- 保健体育教員、部活動顧問、高校生に直接アピールできるようにする。
- ・高大連携を活用して教員が運動指導に出向いたり、アスレティックトレーナーを目指している学生を派遣したりして、交流を図る。
- 【第 1 段階】 県北地区で本学科への進学者が多い高等学校から優先的に実施する。
- 一般市民へ学科のアピール(資格や鍼灸治療所)を行うため、「市民公開講座」等の活用を図る。

(H29)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

- ・前年度に作成した評価基準で実際に評価を行う。出された評価に対し、妥当性を検証し、修正を行う。
- ・卒業研究発表会を試験的に実施する。口演形式、ポスター形式など現在の学科学生数で実施可能な方法で行う。
- ・学科全体の抄録集をデータ(PDF)化し、各教員で保管する。学生から閲覧の要望があれば、閲覧可能な状況を作る。

【基礎国語力増進への対策】

- ・講義科目への e-learning 導入可能性の検討に基づいて、講義科目で e-learning を活用する。
- ・e-learning 実施による学生の国語力の変化について調査、検討する。
- ・e-learning を含めた国語教育の体系化モデルを検討、作成する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

- ・新規に構成したリメディアル科目を運用し、その効果を検討する。
- ・必須科目の中で e-learning を活用し、その有用性を検討する。

【国家試験合格率アップへの対策】

- ・前年度の取り組みを検証し、改善点を洗い出す。国家試験ロードマップが実施可能であったか、改善点はないかを洗い出す。
- ・国家試験科目を持つ教員は、過去問や出題傾向を踏まえ講義に盛り込む。
- ・模擬試験の結果を学生に効率的にフィードバックする方法（学内ネットワークの利用、個別面談の実施、時間外学習時間の設定等）を模索する。

【学科教員の教育力アップの対策】

1. 授業の質を高める。
 - ・すでに大学で実施されている教員相互の授業参観の推進を行う。
 - ・教育方法改善のための研究授業を専門領域グループ別を実施する。
 - ・学生からの授業評価を受けて、教員が自らの授業の問題点を把握し、改善するための工夫について学科内で発表、検討を行う。
 - ・学部 FD（教育部門）との連携を図り、研修の成果を教育に反映させる。
2. 研究力により裏付けされた授業を構築・展開する。
 - ・科学研究費の獲得および学位取得、論文執筆、学会への参加を学科長が促す。
3. その他
 - ・各年度に実施した内容の結果・成果について学科で検討する。
 - ・国家試験あるいは資格試験に関わる教科担当教員（非常勤、兼任教員含む）が定期試験問題・レポート課題等を相互に共有するシステムを実施する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・勉強部屋が確保できた場合、その充実を図る。国家試験対策資料の閲覧棚を作成。各科目担当の教員が過去問題集、参考書などを常備できるようにする。
- ・自習室確保の検討、協議。

【就職率アップへの対策】

- ・就職率 100%を維持する。
- ・キャリアサポートセンター、およびキャリア支援室の積極的な活用を促す。
- ・インターンシップによるキャリア教育を充実させる。
- ・県外を含め、就職先の情報をキャリアサポートセンターと共有する。
- ・卒業生の就労状況を把握する。

【学生生活サポート対策】

- ・学内のカウンセリングの活用を促す。
- ・学生に対してカウンセリング教育を実施する。
- ・学内のカウンセリングに関する状況を共有する。
- ・学生の状況を共有する。（学科会議 月 1 回）
- ・オフィスアワー等で得られた学生生活状況を把握し、学生生活サポート対策を検討する。
- ・各種学科行事（茶話会 合同交流会 運動会 宿泊研修等）を開催し、学生の状況の把握に努める。

【学生指導力の向上】

- ・基礎学力を上げ、学力不足を解消する。
- ・チューター制度を活用し、学生の単位修得状況を把握する。
- ・学生の状況を共有する。（学科会議 月 1 回）
- ・学生生活状況を把握し、必要に応じて保護者への連絡を行う。

【社会人としてのマナー対策】

- 教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。
- ・教員から積極的に挨拶を行うとともに、すべての学科教員が学生生活の様々な場面で社会人としての態度や発言等のマナーについて必要な指導を行う。
- ・学科で行われる様々なイベントを通して、コミュニケーション能力を身につけ、人と関わる時に必要なマナーについて学ぶ機会にする。
- ・事前教育も含めて学外実習を通して、社会人としてのマナーを身につける。
- ・学生のボランティア活動の参加を促し、社会参加することによって社会の一員としてのマナーを自覚させる。

【学科の魅力発信】

- 高校生にとって“進学したくなる学科”を創造する。

- ・魅力的かつ安定的なスポーツ特待生制度を維持する。
- ・学生課と協力し、部活動の活性化策を実施する。
- ・在学生の声に耳を傾け、学科をよりよくするためのアイデアを共に考え、可能なものから実施する。
- 広報活動を状況に応じて工夫し、入試広報と協力して実施する。
- ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、卒業後（出口）の情報提供を行う。
- ・ホームページの最新情報を活用し、より速い情報提供を行うとともに、学科の露出を増やす。
- ・ブログを定期的に更新し、学科の活性の高さをアピールする。
- ・出張講義を積極的かつ効果的に活用する。
- 保健体育教員、部活動顧問、高校生に直接アピールできるようにする。
- ・高大連携を活用して教員が運動指導に出向いたり、アスレチックトレーナーを目指している学生を派遣したりして、交流を図る。
- 【第 2 段階】 県北地区の他の高等学校まで対象を広げる。
- 一般市民へ学科のアピール（資格や鍼灸治療所）を行うため、「市民公開講座」等の活用を図る。

(H30)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

- ・前年度の経験を踏まえ、卒業論文評価基準を決定する。また、学生の総合評価を目的と考え、論文の評価に学生の態度や行動について評価できるかを検討する。（将来的にルーブリックの作成に続くものと期待する。）
- ・より効率的な卒業論文発表会のあり方、運営方法について検討する。部会制（スポーツ部会、社会福祉部会、鍼灸部会、その他等）の検討。

【基礎国語力増進への対策】

- ・e-learning 実施による学生の国語力の変化について調査、検討する。
- ・e-learning の活用を含めた、体系的な国語教育を実践する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

- ・29 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

【国家試験合格率アップへの対策】

- ・国家試験の結果から、前年度、前前年度の取り組みを検証し、改善点を洗い出す。
- ・業者模試のデータを参考に、各学科生の苦手科目の洗い出しを行い、国家試験対策に役立てられるよう準備する。

【学科教員の教育力アップの対策】

1. 授業の質を高める。
 - ・すでに大学で実施されている教員相互の授業参観の推進を行う。
 - ・教育方法改善のための研究授業を実施する。
 - ・学生からの授業評価を受けて、教員が自らの授業の問題点を把握し、改善するための工夫について学科内で発表、検討を行う。
 - ・学部 FD（教育部門）との連携を図り、研修の成果を教育に反映させる。
2. 研究力により裏付けされた授業を構築・展開する。
 - ・科学研究費の獲得および学位取得、論文執筆、学会への参加を学科長が促す。
3. その他
 - ・各年度に実施した内容の結果・成果について学科で検討する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・自習室確保の検討、協議、充実。
- ・実習・実技科目において、必要な設備、模型の要望について聞き取りを行い、予算と照らして、優先順位をつける。

【就職率アップへの対策】

- ・就職率 100%を維持する。
- ・キャリアサポートセンター、およびキャリア支援室の積極的な活用を促す。
- ・キャリア教育を充実させ、希望する職種への就職を支援する。
- ・県外を含め、就職先の情報をキャリアサポートセンターと共有する。
- ・卒業生の就労状況を在学生へのインターンシップ等のキャリア教育に生かす。
- ・卒業生に対して就業に関する支援を継続して行う。

【学生生活サポート対策】

- ・学生に対してカウンセリング教育を実施する。

- ・学内のカウンセリングに関する状況を共有する。
- ・学生の状況を共有する。(学科会議 月1回)
- ・各種学科行事(茶話会 合同交流会 運動会 宿泊研修等)を開催し、学生の状況の把握に努める。
- ・過去2年間の実績を評価し、問題、改善点を検討する。

【学生指導力の向上】

- ・基礎学力を上げ、学力不足を解消する。
- ・チューター制度を活用し、学生の単位修得状況を把握する。
- ・学生の状況を共有する。(学科会議 月1回)
- ・学生生活状況を把握し、必要に応じて保護者への連絡を行う。

【社会人としてのマナー対策】

- 教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。
- ・教員から積極的に挨拶を行うとともに、すべての学科教員が学生生活の様々な場面で社会人としての態度や発言等のマナーについて必要な指導を行う。
- ・学科で行われる様々なイベントを通して、コミュニケーション能力を身につけ、人と関わる時に必要なマナーについて学ぶ機会にする。
- ・事前教育も含めて学外実習を通して、社会人としてのマナーを身につける。
- ・学生のボランティア活動の参加を促し、社会参加することによって社会の一員としてのマナーを自覚させる。

【学科の魅力発信】

- 高校生にとって“進学したくなる学科”を創造する。
- ・魅力的かつ安定的なスポーツ特待生制度を維持する。
- ・学生課と協力し、部活動の活性化策を実施する。
- ・在学生の声に耳を傾け、学科をよりよくするためのアイデアを共に考え、可能なものから実施する。
- 広報活動を状況に応じて工夫し、入試広報と協力して実施する。
- ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、卒業後(出口)の情報提供を行う。
- ・ホームページの到着情報を活用し、より速い情報提供を行うとともに、学科の露出を増やす。
- ・ブログを定期的に更新し、学科の活性の高さをアピールする。
- ・出張講義を積極的かつ効果的に活用する。
- 保健体育教員、部活動顧問、高校生に直接アピールできるようにする。
- ・高大連携を活用して教員が運動指導に出向いたり、アスレティックトレーナーを目指している学生を派遣したりして、交流を図る。
- [第3段階] 県北地区の中学校やスポーツ団体まで対象を広げる。
- 一般市民へ学科のアピール(資格や鍼灸治療所)を行うため、「市民公開講座」等の活用を図る。

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「人の生き方を支える幸せ」をプロデュースできる能力を身につける
学科からの メッセージ	臨床福祉学科の教育には、誰もが自分らしさを発揮し安心して暮らせる社会の実現を目指して、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士を育成する「臨床福祉」とカウンセリングの専門性を有する心理・福祉の専門職を育成する「臨床心理」の2つの専攻があります。現在社会では、悩みや問題を抱える方の生活を支える福祉学と心を支える心理学の専門的な知識と技術を備えた人材がますます必要となっています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、専門知識に加えて人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。
教育力 (ブランド力)	<p>(H28)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 卒業研究へのルーブリックの導入の検討、試案の作成、検証。 ◇ 各専攻での卒論発表会開催の検討。 ◇ 卒論フォーマットの統一化の検討。 ◇ 基礎演習の教育プログラムの検討、試行的導入、効果の検証、教育内容の再考。 ◇ アクティブラーニングの導入科目の検討、導入方法の具体化。 <p>【基礎国語力増進への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ e-learning の有効な活用に向けた、学習単元の検討、学習計画の作成、効果測定方法の検討、学習単元の再考。 ◇ 学生の読解、作文等の機会があればその都度意識的に個別指導を行う。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 統計、社会調査データの取り扱いに必要な学習単元の検討、学習計画の作成、導入方法の検討。 <p>【国家試験合格率アップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 学部共通の時事福祉学への受講を促す。 ◇ 2年次からの国家試験対策学習支援の試験的導入。 ◇ 社福、精神、介護の国試の合格率アップのためのロードマップの作成。 <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 学部FDへの積極的参加を促す。 ◇ 教員相互による授業改善の仕組みを検討。 <p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 心理専攻の実習室として面接実習室の改装をし、施設整備を行う。 ◇ 必要な教育施設の調査。 <p>【就職率アップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ インターンシップへの積極的な参加を促す。 ◇ 就職懇談会への参加を促す。 ◇ 1・2・3年生に卒業生の就職情報を提供する。 ◇ キャリアサポートセンターと連携を密にし、就職の情報を共有し、個別指導に活かす。 <p>【学生生活サポート対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ オフィスアワーなどに相談やコミュニケーションがとりやすい環境を作る。 ◇ チューターも含めた複数の教員で支えていく仕組みづくりをする。 <p>【学生指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 連続欠席者への早めの対応を行う。 ◇ 転学科してきた学生への対応として、定期的に声をかけるなど、馴染める環境を検討する。 <p>【社会人としてのマナー対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 教員から積極的に挨拶を行う。 ◇ 日頃より話し方などのマナーを注意し、個別指導していく。指導方針を教員へ周知する。

【学科の魅力発信】

- ◇ 入学者に対する入学動機、きっかけ調査を実施し、結果を広報活動に活かす。
- ◇ 入試広報室と会議をもち、広報活動について協議し、計画的に広報活動を行う。
- ◇ 指定校へ1・2年生の様子を報告し、卒業生の様子を知ってもらう。
- ◇ 詳細な教員情報、出張講義できる内容等を案内し、出張講義を積極的に行う。

(H29) H28年度の活動総括会議を開催し、その結果を基に以下の目標の調整を行う。

【学生自ら考える力のアップへの対策】

- ◇ 卒業研究へのループリックの試案の再考、学科版ループリックの作成、導入。
- ◇ 基礎演習の教育プログラムの実施、効果の検証、プログラムの再考。
- ◇ アクティブラーニングの試験的導入、導入効果の検証、導入方法の再考。

【基礎国語力増進への対策】

- ◇ e-learning 学習計画の実施、学習効果測定の実施、学習計画効果測定の改善。
- ◇ 学生の読解、作文等の機会があればその都度意識的に個別指導を行う。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

- ◇ 数学学習の試験的導入、導入効果の検証。

【国家試験合格率アップへの対策】

- ◇ 学部共通の時事福祉学への受講を促す。
- ◇ 2年次からの国家試験対策学習の実施、効果の検証。
- ◇ 合格率アップのためのロードマップの沿った活動の実施。

【学科教員の教育力アップの対策】

- ◇ 学部FDへの積極的参加を促す。
- ◇ 教員相互による授業改善の仕組みを実施、検証。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ◇ 心理専攻の実習室として面接実習室の改装をし、施設整備を行う。
- ◇ 教育施設充実のための資金調達法を検討。

【就職率アップへの対策】

- ◇ インターンシップへの積極的な参加を促す。
- ◇ 卒業生の就職情報を提供する取り組みについて検討する。
- ◇ 就職懇談会への参加を促す。
- ◇ キャリアサポートセンターと連携を密にし、就職の情報を共有し、個別指導に活かす。

【学生生活サポート対策】

- ◇ オフィスアワーなどに相談やコミュニケーションがとりやすい環境を作る。
- ◇ チューターも含めた複数の教員で支えていく仕組みづくりをする。

【学生指導力の向上】

- ◇ 連続欠席者への早めの対応を行う。
- ◇ 転学科してきた学生への対応として、定期的に声をかけるなど、馴染める環境を検討する。

【社会人としてのマナー対策】

- ◇ 教員から積極的に挨拶を行う。
- ◇ 日頃より話し方などのマナーを注意し、個別指導していく。指導方針を教員へ周知する。

【学科の魅力発信】

- ◇ 入学者に対する入学動機、きっかけ調査を実施し、結果を広報活動に活かす。
- ◇ 入試広報室と会議をもち、広報活動について協議し、計画的に広報活動を行う。
- ◇ 指定校へ1・2年生の様子を報告し、卒業生の様子を知ってもらう。
- ◇ 詳細な教員情報、出張講義できる内容等を案内し、出張講義を積極的に行う。

(H30) H29年度の活動総括会議を開催し、その結果を基に以下の目標の調整を行う。

【学生自ら考える力のアップへの対策】

- ◇ 卒業研究への学科版ループリック表を導入する。
- ◇ 基礎演習の教育プログラムを導入する。

	<ul style="list-style-type: none"> ◇ アクティブラーニングを導入する。 <p>【基礎国語力増進への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ e-learning の学習計画、効果測定を実行する。 ◇ 学生の読解、作文等の機会があればその都度意識的に個別指導を行う。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 統計、社会調査データの取り扱いに関わる数学学習を実施する。 <p>【国家試験合格率アップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 学部共通の時事福祉学への受講を促す。 ◇ 2年次からの国家試験対策学習支援を導入。 ◇ 合格率アップのためのロードマップの沿った活動の実施。 <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 学部 F D への積極的参加を促す。 ◇ 教員相互による授業改善の仕組みを実施する。 <p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 必要な教育施設整備を行う。 <p>【就職率アップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ インターンシップへの積極的な参加を促す。 ◇ 卒業生の就職情報を提供するガイダンスを導入。 ◇ 就職懇談会への参加を促す。 ◇ キャリアサポートセンターと連携を密にし、就職の情報を共有し、個別指導に活かす。 <p>【学生生活サポート対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ オフィスアワーなどに相談やコミュニケーションがとりやすい環境を作る。 ◇ チューターも含めた複数の教員で支えていく仕組みづくりをする。 <p>【学生指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 連続欠席者への早めの対応を行う。 ◇ 転学科してきた学生への対応として、定期的に声をかけるなど、馴染める環境を検討する。 <p>【社会人としてのマナー対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 教員から積極的に挨拶を行う。 ◇ 日頃より話し方などのマナーを注意し、個別指導していく。指導方針を教員へ周知する。 <p>【学科の魅力発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 入学者に対する入学動機、きっかけ調査を実施し、結果を広報活動に活かす。 ◇ 入試広報室と会議をもち、広報活動について協議し、計画的に広報活動を行う。 ◇ 指定校へ1・2年生の様子を報告し、卒業生の様子を知ってもらう。 ◇ 詳細な教員情報、出張講義できる内容等を案内し、出張講義を積極的に行う。
<p>その他</p>	<p>公認心理士の国家資格化（認定心理士は別途継続） 平成29年度卒業生より「介護福祉士」卒業時取得資格から介護福祉士国家試験受験資格に変更。</p>

ビジョン <small>(教育目標)</small>	九保大だから学べる「子どもを育てる幸せ」をプロデュースできる能力を身につける
学科からの メッセージ	<p>子ども保育福祉学科の教育目標は、保育士、幼稚園教諭、社会福祉士等の国家資格取得のもと先にあります。近年、核家族化による保護者の子育て負担の増大などを背景に、少子化が進行し、社会全体での子育て支援が大きな課題となっています。だからこそ、乳幼児期の心身ともに調和のとれた“全人的”な発育成長を支えることができる有能な人材が求められています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、乳幼児の保育・教育の専門知識に加えて、人々の子どもを育てる幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。</p>
教育力 <small>(ブランドカ)</small>	<p>(H28)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 卒業研究のルーブリックを試作し、試験的に運用する。 ● 学科教員全員でその評価につき検証を行う。 ● 検証結果に基づき、ルーブリック表を改正する。 ● 次年度以降はルーブリック表自体を指導マニュアルとして活用する。 <p>【基礎国語力増進への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「基礎演習」の授業を通し、基礎国語力の総合的増進に取り組む。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存のリメディアル教育について検証を行う。 ● 楽器の習熟度に応じた課題に対して学生が積極的に取り組む仕組みを構築する。 <p>【国家試験合格率アップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 以下の過程を踏まえたロードマップを作成し、実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ①現在の実力の確認 ②国試過去問に目を通しているか ③重要ポイントの整理 ④国試設問の意図の理解 ⑤新問題 ● ロードマップを踏まえたうえで、各学年において以下の項目を具体化的に組み込む。 <ul style="list-style-type: none"> 4年生対象の対策 <ul style="list-style-type: none"> 隔週において模擬試験を実施する。 模擬試験実施後翌週に成績に基づき個別面談を実施し指導する。 全国統一模試（2回）と校内模試の結果をデータ化し、個別面談に活用する。 3年生対象の対策 <ul style="list-style-type: none"> 月1回の校内模試を実施する。（国試科目 19科目すべて実施） 校内模試の結果に基づき次週に個別面談を行う。 2年生 <ul style="list-style-type: none"> 早期からの自己学習の取組の動機付けを図るため、社会福祉士現場実習履修予定者を対象に夏期、春期に校内試験を実施する。 夏期 1年次科目 2年次前期科目 13科目 春期 1・2年次科目 15科目 当年度の評価を行い、改善点を検討し次年度につなげる。 <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業の質を高める。（授業参観、授業指導法等の充実を図る） ● 学部 FD との連携を図り教育方法の改善・充実を図る。（アクティブラーニングの積極的導入等） ● 研究力のアップを図る。（外部資金の獲得、学位の取得を奨励する） <p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ活動、自習のための場所（部屋）を確保する。 <p>【就職率アップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学科の1期生より継続している就職率 100%を維持する。 ● 各ゼミ担任は、学生それぞれの個性や希望から就職に関して、学生が早期に活動するように指導する。 ● キャリアサポートセンターを積極的に活用する仕組みを構築する。 ● インターンシップへの参加を促す。

【学生生活サポート対策】

- 生活面で配慮する必要がある学生に対するフォローアップの仕組みを構築する。(学科担当者の設置及び学部及び大学の相談窓口の積極的活用)
- 上記に関し、保護者との連携による早期の発見・認識と学科内における問題の共有化をはかり、専門家による対応に繋いでいく。
- 学科行事等の企画運営を通じて教員学生間および学生間の相互理解を促進する。

【学生指導力の向上】

- 毎月のチューター時間、毎週のゼミ指導を通して、学生の学業への取り組み姿勢や授業欠席の把握、精神面、生活面、健康面等をきめ細かくチェックする。
- 学生の状況を共有する。(学科会議において 月 1 回)
- 学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

- 学生が社会人になった時、きちんと挨拶できるよう、教員から学生に挨拶する運動を推進する。
- 各チューター・ゼミ担当教員が、マナーについての学生自身の心構え(マナーを身につけるために、具体的にどのようなことに気をつけて大学生生活を送ろうと考えているか)について確認するとともに、チェックリスト等を活用し、挨拶や態度に関して学生自身の自覚を促す。
- 学科の学生については、全ての学科教員が大学生活における様々な場面で、保育現場で求められるマナーが身に付くように、場を捉えて必要な指導を行う。
- 各教員が毎回の授業において、人の話を聞く態度、発言の仕方等のマナーについて指導を行う。
- 体験学習や現場実習(保育、社福、幼稚園)の事前指導においてマナー指導を実施する。

(H29)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

- 平成 28 年度に作成したルーブリック表を実際に運用し、卒業研究の指導を実施する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

- 平成 28 年の実践を振り返り、楽器の習熟度に応じた課題に学生が積極的に取り組む仕組みを強化する。

【国家試験合格率アップへの対策】

- H28 年度の評価に基づき(ロードマップから)、内容を改善し実施する。

【学科教員の教育力アップの対策】

- H28 の結果を振り返り、改善を試みる。
- 授業の質を高める。(授業参観、授業指導法等の充実を図る)
- 学部 FD との連携を図り教育方法の改善・充実を図る。(アクティブラーニングの積極的導入等)
- 研究力のアップを図る。(外部資金の獲得、学位の取得を奨励する)

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ゼミ活動、自習のための場所(部屋)を確保する。

【就職率アップへの対策】

- 平成 28 年に引き続き、学科 1 期生より継続している就職率 100%を維持する。
- 各ゼミ担任は、学生それぞれの個性や希望から就職に関して、学生が早期に活動するように指導する。
- キャリアサポートセンターを積極的に活用する仕組みを構築する。
- インターンシップをベースにしたキャリア教育の充実を図る。

【学生生活サポート対策】

- 平成 28 年度を引き継ぎ、生活面で配慮する必要がある学生に対するフォローアップの仕組みを充実させる。(学科担当者の設置及び学部及び大学の相談窓口の積極的活用)
- 上記に関し、保護者との連携による早期の発見・認識と学科内における問題の共有化をはかり、専門家による対応に繋いでいく。
- 学科行事等の企画運営を通じて教員学生間および学生間の相互理解を促進する。

【学生指導力の向上】

- 毎月のチューター時間、毎週のゼミ指導を通して、学生の学業への取り組み姿勢や授業欠席の把握、精神面、生活面、健康面等をきめ細かくチェックする。
- 学生の状況を共有する。(学科会議において 月 1 回)
- 学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

- H28 の実践を振り返り、学生にどの程度マナーが身に付いているかを教員間で確認した上で、必要な対応について考え、実践する。
- 各チューター・ゼミ担当教員が、マナーについての学生自身の心構えについて確認するとともに、チェックリスト等を活用し、挨拶や態度に関して学生自身の自覚を促す。
- 学科の学生については、全ての学科教員が大学生活における様々な場面で、保育現場で求められるマナーが身に付くように、場を捉えて必要な指導を行う。
- 各教員が毎回の授業において、人の話を聞く態度、発言の仕方等のマナーについて指導を行う。
- 体験学習や現場実習（保育、社福、幼稚園）の事前指導においてマナー指導を実施する。

(H30)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

- 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

- 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

【国家試験合格率アップへの対策】

- H29 年度の評価に基づき、内容を改善し実施する。
- 全国平均を上回る合格率を達成する。
- 3 年間の取り組みの評価に基づき、新たなる目標を設定する。

【学科教員の教育力アップの対策】

- 2 年間の結果を振り返り、改善を試みる。
- 授業の質を高める。（授業参観、授業指導法等の充実を図る）
- 学部 FD との連携を図り教育方法の改善・充実を図る。（アクティブラーニングの積極的導入等）
- 研究力のアップを図る。（外部資金の獲得、学位の取得を奨励する）

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ゼミ活動、自習のための場所（部屋）を確保する。

【就職率アップへの対策】

- 平成 29 年に引き続き、学科 1 期生より継続している就職率 100%を維持する。
- 各ゼミ担任は、学生それぞれの個性や希望から就職に関して、学生が早期に活動できるように指導する。
- キャリアサポートセンターを積極的に活用する仕組みを構築する。
- 29 年度までに実施したキャリア教育の検証を行い改善する。

【学生生活サポート対策】

- 平成 29 年度を引き継ぎ、生活面で配慮する必要のある学生に対するフォローアップの仕組みを完成させる。（学科担当者の設置及び学部及び大学の相談窓口の積極的活用）
- 上記に関し、保護者との連携による早期の発見・認識と学科内における問題の共有化をはかり、専門家による対応に繋いでいく。
- 学科行事等の企画運営を通じて教員学生間および学生間の相互理解を促進する。
- これらにより在籍学生の全員卒業を目指し、学科の有終の美を飾る。

【学生指導力の向上】

- 毎月のチューター時間、毎週のゼミ指導を通して、学生の学業への取り組み姿勢や授業欠席の把握、精神面、生活面、健康面等をきめ細かくチェックする。
- 学生の状況を共有する。（学科会議において 月 1 回）
- 学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

- H29 の実践を振り返り、学生にどの程度マナーが身に付いているかを教員間で確認した上で、必要な対応について考え、実践する。
- 各チューター・ゼミ担当教員が、マナーについての学生自身の心構えについて確認するとともに、チェックリスト等を活用し、挨拶や態度に関して学生自身の自覚を促す。
- 学科の学生については、全ての学科教員が大学生活における様々な場面で、保育現場で求められるマナーが身に付くように、場を捉えて必要な指導を行う。
- 各教員が毎回の授業において、人の話を聞く態度、発言の仕方等のマナーについて指導を行う。
- 幼稚園教育実習の事前指導においてマナー指導を実施する。

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「たとえ障害があったとしても自分らしく生きていくことの幸せ」をプロデュースできる能力を身につける
学科からの メッセージ	<p>作業療法学科の教育目標は、作業療法士国家試験合格のもと先にあります。少子高齢化に伴う介護の問題、うつ病による自殺、障害者の雇用問題など、単に病気や障害への対応だけでは自分らしく生きていく事が難しいほど、生活困難の様が多様化しています。作業療法はどのような状況に置かれても、常に心と身体のバランスに目を向け、その人らしく生きていく事を医療・福祉の側面から支えていきます。本学では、入学後の医学の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、患者さんに対し「病気や障害がある人も自分らしく輝いて生きていくこと」の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。</p>
教育力 (ブランドカ)	<p>(H28)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】 演習系の科目にはすでにアクティブラーニングが用いられて授業遂行がなされている。また、その検証も、各年次に実施される学外実習にて大学側が用意した実習評価表を使用し、スーパーバイザーが実習遂行を確認する仕組みを構築している。 卒論に関しては28年度、評価用ルーブリック表を学科で作成し、試行的に運用する。 評価用ルーブリックに基づき、卒業研究指導マニュアルを作成する。その結果を検証し次年度の実施に向けた準備を学科内で検討する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】 現在、作業療法概論（1年次）では当日学んだことを作文する時間を設け、書く力、まとめる力、読み解く力を作業療法の内容を通して行っている。当面、作文する時間をe-learningに当て、有用性を検証する。また、リメディアル教育の一部としても取り入れ、有用性の検証を行う。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】 既存のリメディアル教育内容の検証を行う。 国語以外の「すらら」の導入、および導入が必要かどうかも含め検討する。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】 国家試験過去問題の活用方法の検討 1年次から主体的に学習する機会の提供（放課後学習室、寺子屋学習室）を行い、同時に国家試験に必要な基礎科目（解剖学、生理学、運動学）を中心とした学習内容を行っていく。 各年次の特性（基礎学力が低い、全体的に意欲が低いなど）を勘案した学習方法を担当チューターを中心として学科全体で話し合いながら国家試験対策を考えていく。 国家試験勉強に集中しやすい環境の整備を行う。（実習棟の一部を一時期勉強部屋に改装する） 規則正しい生活を常に指導する。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 定期的な会議で授業内容の確認を行い、教育内容の確認を行う。 日本作業療法協会が指定する教員の教育力向上研修や新しい評価方法の研修会に積極的に参加させ、その内容を学科内にフィードバックする。また、学生の講義内容に反映するように教員間でコンセンサスを得ておく。 年1本以上の論文執筆を行うように学科長から指導する。</p> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】 文科省、厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。</p> <p>【就職率アップへの対策】 キャリアサポートセンターとの連携をとり、募集に来た施設には出来る限り対応する。</p> <p>【学生生活サポート対策】 悩みのある学生に対するカウンセリングの仕組みを充実させる。（保健室等の利用） 予防接種や自分自身の体の変調に気づくように、心身の病、感染症についての啓発活動を行う。</p> <p>【学生指導力の向上】 ◇ 基礎学力を上げ、学力不足を解消する。 ◇ 学生の適正に応じた指導を行う。</p>

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

1年次より各科目にて挨拶の大切さを教える。

学外実習（1年、3年、4年）に出る前に、社会人としてのマナーを繰り返し学ばせる。

【学科の魅力発信】

日頃の広報活動のほか、オープンキャンパス時、大学祭時など外部の人たちと触れ合う機会を有効に活用し、作業療法の魅力を伝える。

卒業生の動向（海外青年協力隊で活躍している卒業生や地域、病院で活躍している卒業生現状報告など）を高校への学校説明会、出前講義時に学生や進路指導の先生に伝える。

教員は社会貢献（地域）や研究などで外部に作業療法の魅力を啓発できる機会が多い。そのような機会に意識をもって作業療法の魅力を啓発する。

(H29)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

演習系の科目にはすでにアクティブラーニングが用いられて授業遂行がなされている。また、その検証も、各年次に実施される学外実習にて大学側が用意した実習評価表を使用し、スーパーバイザーが実習遂行を確認する仕組みを構築している。

卒論に関しては29年度、評価用ルーブリック表を学科で作成し運用する。

その結果を検証し30年度の実施に向けた改善を学科内で検討する。

【基礎国語力増進への対策】

昨年度の実施結果を分析し、作業療法概論（1年次）もしくはリメディアル教育の一部としても取り入れる。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

昨年度の実施結果を分析し、国語以外の「すらら」を導入する。

【国家試験合格率アップへの対策】

昨年度の実施結果を分析し、基本的には継続的に行い、改善点はその都度学科内で話し合い改善策を講じる。

【学科教員の教育力アップの対策】

定期的な会議で授業内容の確認を行い、教育内容の確認を行うことを継続。

日本作業療法協会が指定する教員の教育力向上研修や新しい評価方法の研修会に積極的に参加させ、その内容を学科内にフィードバックすることの継続。

年1本以上の論文執筆を行うように学科長からの指導を継続。

【教育施設のレベルアップのための対策】

文科省、厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。（継続）

【学生生活サポート対策】

悩みのある学生に対するカウンセリングの仕組みを充実させる。（保健室等の利用）

予防接種や自分自身の体の変調に気づくように、心身の病、感染症についての啓発活動を行う。（継続）

【学生指導力の向上】

◇ 基礎学力を上げ、学力不足を解消する。

◇ 学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

1年次より各科目にて挨拶の大切さを教える。（継続）

学外実習（1年、3年、4年）に出る前に、社会人としてのマナーを繰り返し学ばせる。（継続）

【学科の魅力発信】

日頃の広報活動のほか、オープンキャンパス時、大学祭時など外部の人たちと触れ合う機会を有効に活用し、作業療法の魅力を伝える。（継続）

卒業生の動向（海外青年協力隊で活躍している卒業生や地域、病院で活躍している卒業生現状報告など）を高校への学校説明会、出前講義時に学生や進路指導の先生に伝える。（継続）

教員は社会貢献（地域）や研究などで外部に作業療法の魅力を啓発できる機会が多い。そのような機会に

意識をもって作業療法の魅力を啓発する。(継続)

(H30)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

演習系の科目にはすでにアクティブラーニングが用いられて授業遂行がなされている。また、その検証も、各年次に実施される学外実習にて大学側が用意した実習評価表を使用し、スーパーバイザーが実習遂行を確認する仕組みを構築している。(継続)

卒論の評価用ルーブリック表を学科で運用し、その結果を検証し、学科内で改善点の話し合いその結果をもとに実施していく。

【基礎国語力増進への対策】

作業療法概論（1年次）もしくはリメディアル教育の一部としても取り入れた結果の検証を行い改善すべきところは改善し、実施する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

国語以外の「すらら」の実施結果の検討を行い、改善するべきところ、継続するところを検証する。

【国家試験合格率アップへの対策】

昨年度の実施結果を分析し、基本的には継続的に行い、改善点はその都度学科内で話し合い改善策を講じる。

【学科教員の教育力アップの対策】

定期的な会議で授業内容の確認を行い、教育内容の確認を行うことを継続。

日本作業療法協会が指定する教員の教育力向上研修や新しい評価方法の研修会に積極的に参加させ、その内容を学科内にフィードバックする。(継続)

年1本以上の論文執筆を行うように学科長から指導する。また、海外での学会発表、英語論文の執筆などを指導する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

文科省、厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。(継続)

【学生生活サポート対策】

悩みのある学生に対するカウンセリングの仕組みを充実させる。(保健室等の利用)

予防接種や自分自身の体の変調に気づくように、心身の病、感染症についての啓発活動を行う。(継続)

【学生指導力の向上】

◇ 基礎学力を上げ、学力不足を解消する。

◇ 学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

1年次より各科目にて挨拶の大切さを教える。(継続)

学外実習（1年、3年、4年）に出る前に、社会人としてのマナーを繰り返し学ばせる。(継続)

【学科の魅力発信】

日頃の広報活動のほか、オープンキャンパス時、大学祭時など外部の人たちと触れ合う機会を有効に活用し、作業療法の魅力を伝える。(継続)

卒業生の動向（海外青年協力隊で活躍している卒業生や地域、病院で活躍している卒業生現状報告など）を高校への学校説明会、出前講義時に学生や進路指導の先生に伝える。(継続)

視覚的にわかりやすいパンフレットの作成なども考える。

教員は社会貢献（地域）や研究などで外部に作業療法の魅力を啓発できる機会が多い。そのような機会に意識をもって作業療法の魅力を啓発する。(継続)

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力を身につける
学科からの メッセージ	言語聴覚療法学科の教育目標は、言語聴覚士国家試験合格のもと先にあります。現在、脳梗塞などでコミュニケーションが取れない、食事ができない高齢者や、コミュニケーション上のやり取りが不得意なお子さんが増えています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、「コミュニケーションができる」「口から食べられる」など、言語聴覚士として幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。
教育力 (ブランド力)	<p>(H28)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】 ・既に実施している卒業研究(専門ゼミ I.II.III)の中で、卒業論文を完成させるための、考える力に関する目標を学生と共に段階的に設定し、実行させる。 ・学科内で各学生の目標を共有し、各ゼミ単位で各学生の目標を見直しつつ、卒業論文の完成を目指す。 ・学生がオープンキャンパスやバイザー会議の運営へ参加し、説明の仕方や、来校者、実習指導者への対応などについて、考える力をつける。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】 ・必修科目である基礎ゼミ (I,II) の講義内で e-learning を積極的に活用する。実施前後に試験を実施し、実施前後の比較により、e-learning の有用性を検討する。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】 ・英語など、e-learning が導入可能な科目の検討を行う。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】 国家試験過去問題の活用方法の検討 ・国家試験対策部門で取り組みの内容を検討し、学科会議内で学生の取組方の様子を情報共有し、取組の評価・修正を行う。 ・H27年より実施している e-learning による国家試験対策ソフト「ST サプリ」を引き続き導入し、学生の実施頻度や模試や国試本番の点数等を評価し、実施内容の再評価を行う。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 ・学科会議等を通じ、基礎系科目と臨床系科目の内容の確認や、基礎系・臨床系教員の連携を強化し、教育目標を共有する。 ・国家試験対策内での補講等の各学科内挙員の取組内容を学科会議等で確認・共有し、各教員の教育力をアップする。</p> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】 ・社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室という、他校には無い特徴的な学科内施設や、ビデオ記録・配信システムの、講義・実習内での積極的活用を行う。 ・文科省・厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。</p> <p>【就職率アップへの対策】 ・履歴書作成指導や模擬面接等を通じて、全ての学生が希望する施設へ就職できるよう、学内就職部門と連携を取りながら、きめ細かい指導を行う。 ・「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」が求人側施設にアピールできるよう、学生の臨床教育を行う。</p> <p>【学生生活サポート対策】 ・入学式後や夏季休暇後(1-4年次生)、学外実習前(3年次生)、国家試験対策・就職(4年生)などに関する定期的な面談をチューター等が実施し、各学生の情報を学科会議内で討議し、教員間で共有する。そして各学生が抱える問題を早期に発見し、適切に対応する。 ・発達障害や精神疾患に対する知識や対応方法を向上するための研修を、学科内 FD 研修として行う。</p> <p>【学生指導力の向上】 ・基礎学力を上げ、学力不足を解消する。 ・一年次から見学実習を導入するなど、学生に対し早期から ST の魅力を知るための手段を構築する。 ・経済的な問題がある学生には、病院からの就学金を含む各種奨学金を勧める。</p>

・学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

- ・頭髪、服装、爪の長さなどの基本的な身だしなみ、挨拶等の臨床に必要な基本的態度について、学内の実習科目（臨床実習Ⅰ～Ⅴ）を通して具体的に指導する。
- ・延岡市内の一般企業への見学実習、言語聴覚障害児・者を対象とした学内実習を通じ、あいさつなどの社会人としてのマナーを身に付けさせる。

【学科の魅力発信】

- ・入試広報室と連携し、中高生や PTA の学科内見学や中・高校、病院、施設内の模擬講義等を積極的に受ける。
- ・オープンキャンパスの内容の工夫、学科ブログやフェイスブック等を通じて積極的な広報を行う。
- ・9月1日の「言語聴覚の日」イベントの運営、言語聴覚障害者相談システム「ハロー」における支援を通じ、地域への発信を積極的に行う。

(H29)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

- ・平成 28 年度に実施した、卒業研究関連科目の内容や学生の卒業研究の実施状況、オープンキャンパス・バイザー会議の内容・実施状況を評価し、内容を改善・実施する。

【基礎国語力増進への対策】

- ・平成 28 年度の e-learning の実施状況と試験結果をもとに、内容を改善し実施する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

- ・新規に e-learning を採用した科目を運用し、その効果を検討する。

【国家試験合格率アップへの対策】

- ・国家試験対策部門で平成 28 年度の取組内容を検討し、かつ学科会議内で、取組の評価・修正を行い、実施する。
- ・e-learning による国家試験対策ソフト「ST サブリ」の平成 28 年度の実施状況や問題点を検討し、実施内容の改善をし、再実施する。

【学科教員の教育力アップの対策】

- ・継続的に、学科会議等を通じ、基礎系科目と臨床系科目の内容の確認や、基礎系・臨床系教員の連携を強化し、教育目標を共有する。国家試験対策内での補講等の各学科内挙員の取り組みを学科会議等で確認・共有し、各教員の教育力をアップする。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・文科省・厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。
- ・社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室という、他校には無い特徴的な学科内施設や、ビデオ記録・配信システムの、講義・実習内での積極的活用を行う。
- ・e-learning 等。新たな教育システムを導入し、その可能性を検討する。

【就職率アップへの対策】

- ・継続的に、履歴書作成指導や模擬面接等を通じて、全ての学生が希望する施設へ就職できるよう、学内就職部門と連携を取りながら、きめ細かい指導を行う。
- ・引き続き、「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」が求人側施設にアピールできる、学生の臨床教育を行う。

【学生生活サポート対策】

- ・引き続き、入学式後や夏季休暇後（1-4 年次生）、学外実習前（3 年次生）、国家試験対策・就職（4 年生）などに関する定期的な面談をチューター等が実施し、各学生の情報を学科会議内で討議し、教員間で共有する。そして各学生が抱える問題を早期に発見し、適切に対応する。
- ・平成 28 年度に実施した発達障害や精神疾患を抱える学生に対する対応への評価を行い、対処法に対する再検討を行う。

【学生指導力の向上】

- ・基礎学力を上げ、学力不足を解消する。
- ・一年次から見学実習を導入するなど、学生に対し早期から ST の魅力を知るための手段を構築する。
- ・経済的な問題がある学生には、病院からの就学金を含む各種奨学金を勧める。

・学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

・平成 28 年度に引き続き、頭髪、服装、爪の長さなどの基本的な身だしなみ、挨拶等の臨床に必要な基本的態度について、学内の実習科目（臨床実習Ⅰ～Ⅴ）を通して具体的に指導する。

・平成 28 年度に引き続き、延岡市内の一般企業への見学実習、言語聴覚障害児・者を対象とした学内実習を通じ、あいさつなどの社会人としてのマナーを身に付けさせる。

【学科の魅力発信】

・平成 28 年度に引き続き、入試広報室と連携し、中高生や PTA の学科内見学や中・高校、病院、施設内の模擬講義等を積極的に受ける。

・オープンキャンパスの内容の工夫、学科ブログやフェイスブック、新たなメディアの使用等を通じて積極的な広報を行う。

・9月1日の「言語聴覚の日」イベントの運営、言語聴覚障害者相談システム「ハロー」における支援を通じ、地域への発信を積極的に行う。

(H30)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

・平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善・実施する。

【基礎国語力増進への対策】

・平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善・実施する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

・平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。新たな科目の導入を検討する。

【国家試験合格率アップへの対策】

・平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善・実施する。

【学科教員の教育力アップの対策】

・平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善・実施する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

・文科省・厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。

・平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

【就職率アップへの対策】

・継続的に、学内就職部門と連携を取りながら、全ての学生が希望する施設へ就職できるよう、きめ細かい指導を行う。「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」が求人側施設にアピールできる、学生の臨床教育を行う。

【学生生活サポート対策】

・引き続き、定期的な面談をチューター等が実施し、各学生の情報を学科会議内で討議し、教員間で共有する。そして各学生が抱える問題を早期に発見し、適切に対応する。平成 29 年度の発達障害や精神疾患を抱える学生に対する対応への評価を行い、対処法に対する再検討を行う。

【学生指導力の向上】

・基礎学力を上げ、学力不足を解消する。

・引き続き、学生に対し早期から ST の魅力を知るための手段を構築する。

・経済的な問題がある学生には、病院からの就学金を含む各種奨学金を勧める。

・学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

・平成 29 年度に引き続き、基本的な身だしなみ、挨拶等の指導を、日常的かつ学内の実習科目（臨床実習Ⅰ～Ⅴ）を通して具体的に指導する。

【学科の魅力発信】

・平成 29 年度の検討結果をもとに、学科の魅力発信の内容を改善・実施する。

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「みる・みえる幸せ」をプロデュースできる能力を身につける
学科からの メッセージ	視機能療法学科の教育目標は、視能訓練士国家試験合格のもと先にあります。現在、高齢化社会が進み視力障害や眼疾患で悩む患者さんが多くなっています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、高度な眼科医療を支える専門知識に加えて、患者さんの「みる」「みえる」幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。
教育力 (ブランド力)	<p>(H28)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究のルーブリックを教務委員で作成し、学科教員全員で妥当性について検討を行う。 検討結果に基づき、ルーブリック表を改正する。 <p>実習講義（臨床実習事前指導）における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニング[※]の試験的導入。 ※教員側より与えられる学習ではなく、グループ学習にて検査マニュアルを作成することを目標にアクティブラーニング（文献調査、グループ内討論、検査マニュアルの作成）を実施する。 上級学生が teaching assistant として実習に参加し下級学生へ指導を行う。 学生に対しオープンキャンパスへの参加協力を促し、展示品準備と来場者に対する説明を実践させる。 <p>【基礎国語力増進への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎ゼミⅠ・Ⅱの講義内で e-learning を活用する。実施前後に有用性検証のための試験を実施し、次年度のユニット数や学習項目を検討する。 入学前教育に e-learning を導入する。 専門ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲにおいてゼミ単位の文献抄読会を導入する。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3～4年次生では、ゼミ単位での上級生から下級生への学生による学習サポート体制を構築する。必要に応じて、ゼミ担当教員の個別指導を実施する。 1年次生では e-learning の取り組みを強化し、基礎学力の獲得を目指す。 2年次生では「基礎ゼミ」の中で視能訓練士に必要な国語以外の科目の基礎学力の必要性を伝え（自ら自覚させ）、能動的学習への学びの姿勢を養う。 3～4年次生では、専門ゼミの中で担当教員による指導を強化する。 <p>【国家試験合格率アップへの対策】</p> <p>毎年国家試験全員合格と共に教員の教育以外のエフォートを向上させることを最終目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科教員が一丸となった国家試験対策を行うためのマニュアル作成。 計画性を持った国家試験対策を行うためのロードマップの作成。 模擬試験問題水準の一定水準を維持するため、国家試験問題で“問われている内容”と“必要な知識”の整理。 学生の能動的学習を促進するため、3年次生から国家試験過去問題を用いた模擬試験の実施と学習方法の指導。 <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p> <p>講義や試験問題の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義内容や試験問題を相互に確認することで互いに高め合う。 ルーブリック評価法について勉強し、理解を深める。 <p>研究活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 各専門分野別に論文抄読会の実施。 学会や講習会への参加。 <p>臨床技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 眼科病院での継続的な研修の参加。 臨床経験を積む場、研究の場の1つとして、3歳児眼科健診などに積極的に参加する。 <p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育設備を中心に文部科学省をはじめとして利用可能な補助金等の情報収集を行う。 臨床現場で頻度の高い実習機器について質的、数的整備を実施する。 新たな検査機器ついて、メーカーのデモ導入を検討する。

- ・ 学生の共用学習スペースの 3 号棟 2 階への設置について検討する。

【就職率アップへの対策】

視能訓練士の就職率は全国的にも安定した傾向であり、また売り手市場である。しかし、これに甘んじることなく今後も安定した就職先の確保のための活動を行う。

- ・ 計画の基本的な考えとして、キャリアサポート室を積極的に有効活用することを主体とし、戦略的に行われている各種の就職面談会や就職懇談会に積極的に参加する。
- ・ 宮崎県内眼科への就職率向上を目指し、宮崎大学医学部附属病院をはじめとする宮崎県内眼科と良好な関係を保つ。
- ・ 高い国家試験合格率を維持する。

【学生生活サポート対策】

- ・ いつでも勉強できる環境を整備する。…生理学教室等の開放
- ・ 気楽に話せる環境を整備する。…とにかく、学生と対話し仲良くなる。
- ・ 学生から寄せられた情報はガールーンを活用し情報共有を行い、どの教員も対応できるような体制を整える。

【学生指導力の向上】

- ・ 明るくたのしい学生生活の構築。…国試合格まで優しく、粘り強く指導。
- ・ 学生および保護者に、試験問題、学習内容の方向性を提示し理解させる。…国家試験対策マニュアル
- ・ 基礎学力を上げ、学力不足を解消する。…国家試験対策マニュアル
- ・ 超早期な保護者への連絡対応。

【社会人としてのマナー対策】

- ・ 教員側から積極的に挨拶を行う。
- ・ 誤った言葉の遣い方があった際はその都度注意する。
- ・ 検査実習などにおいて丁寧な言葉遣いがあった際は良かった点を指摘する。
- ・ 実習室使用ルールおよび実習生としてのマナーの指導を 1 年次より実施する。
- ・ 臨床実習事前指導では医療従事者における接遇マナーの専門書を用い、事例を交えた指導を実施する。
- ・ ボランティア活動の意義を学生へ説明し参加を促す。

【学科の魅力発信】

- ・ 入試広報室との連携を密にし、中学生、高校生、PTA の方の学科内見学回数の充実を図る。学科教員を含めた高校訪問を充実させ「視能訓練士ならでは」のアピールを高校の進路指導の先生にお伝えする。
- ・ 在校生による夏休みや長期休みをはじめとした「高校訪問」を充実させ、進路指導の先生や後輩への口コミでの好感度 UP をねらう。
- ・ オープンキャンパスの内容を工夫し、親しみやすい視機能療法学科を見ていただく。具体的には、来学者一人ひとりに学生担当者が付いて、丁寧な案内を行う。学生は来学者の出身地に合わせた人選を行い、例えば佐伯からの見学者には佐伯出身の学生を当てるなど、より地元に着したローカル接待を行い、親近感を持ってもらう。
- ・ 学科ブログやフェイスブックをはじめとするメディアを活用した SNS 広報（現在も行っている）を充実する。
- ・ H28 年度より公的に延岡市から依頼された 3 歳児検診（これまでも実績がある）で、九保大の視機能療法学科をアピールする。具体的には、学科教員が学内の名札（もしくは、新規作成）を着用し、検診時に母親（または父親）に、九保大をアピールする。必要に応じて眼に関する質問や不安にお応えする。
- ・ 学科教員の積極的な学会・講習会における発表にて九保大をアピールする。

(H29)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

平成 28 年度に作成した卒業研究のルーブリックを模擬的に運用し、妥当性・信頼性の検証を行う。

検証結果に基づき、ルーブリック表を改正する。

次年度からの導入に向けて準備を進める。

実習講義（臨床実習事前指導）における工夫

- ・ アクティブラーニング[※]の導入。
※教員側より与えられる学習ではなく、グループ学習にて検査マニュアルを作成することを目標にアクティブラーニング（文献調査、グループ内討論、検査マニュアルの作成）を実施する。
- ・ 上級学生が teaching assistant として実習に参加し下級学生へ指導を行う。
- ・ 学生に対しオープンキャンパスへの参加協力を促し、展示品準備と来場者に対する説明を実践させる。

【基礎国語力増進への対策】

- ・平成 28 年度の検証結果に基づき、e-learning のユニット数や学習項目を見直す。
- ・入学前教育に e-learning を活用する。
- ・専門ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲにおいてゼミ単位の文献抄読会を定期的を実施する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

- ・3～4年時生では、28年度の方針による効果を測定および確認し、必要に応じてゼミ単位での個別指導を導入する。
- ・1～2年次生では、到達度別クラスを作成し、到達度の低い学生には、目標設定の再検討および、到達度クラス別の補講を実施し、効果測定を行う。

【国家試験合格率アップへの対策】

- ・H28年度の国家試験を解くために必要な知識の整理から、本学科教務委員会とリンクし、国家試験出題基準対応表に漏れのない教育の実施確認を行う。
- ・3年次生に対する早期国家試験対策の取り組みの効果測定により早期教育の検証と修正を行う。

【学科教員の教育力アップの対策】

講義や試験問題の可視化・・・教員、学生、保護者への情報共有の徹底

- ・講義内容や試験問題を相互に確認することで互いに高め合う。
- ・授業にルーブリック評価法を使ってみて授業レベルの向上と質を検討する。

研究活動の促進

- ・各専門分野別に論文抄読会の実施。
- ・学会や講習会への参加。

臨床技術の向上

- ・眼科病院での継続的な研修の参加。
- ・臨床経験を積む場、研究の場の1つとして、3歳児眼科健診などに積極的に参加する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・教育設備を中心に拡充を図るために、文部科学省をはじめとして利用可能な補助金等があれば積極的に応募する。
- ・臨床現場で頻度の高い実習機器について質的、数的整備を実施する。
- ・新たな検査機器について、メーカーのデモ導入を施行する。
- ・学生の共用学習スペースを3号棟2階に設置し、利用を促進する。

【就職率アップへの対策】

- ・H28年度の取り組みを維持する。
- ・卒業生と積極的に連絡を取り合い、就職先の情報収集や卒業生の動向を把握する。

【学生生活サポート対策】

- ・いつでも勉強できる環境の整備・・・ホワイエ、生理学教室等の充実。
- ・気楽に話せる環境の整備・・・まずは、学生と対話し仲良くなる。学生から寄せられた情報はガールーンを活用し情報共有を行い、どの教員も対応できるような体制を整える。

【学生指導力の向上】

- ・明るくたのしい学生生活の構築・・・国試合格まで優しく、粘り強く指導。
- ・基礎学力を向上し、学力不足を解消する。
- ・宮崎大学病院や県立病院への見学による視能訓練士へのモチベーション向上。
- ・超早期からの本人および保護者へ連絡、対応。

【社会人としてのマナー対策】

- ・教員側から積極的に挨拶を行う。
- ・誤った言葉の遣い方があった際は都度注意する。
- ・検査実習などにおいて丁寧な言葉遣いがあった際は良かった点を指摘する。
- ・実習室使用ルールおよび実習生としてのマナーの指導を1年次より実施する。
- ・臨床実習事前指導では医療従事者における接遇マナーの専門書を用い、事例を交えた指導を実施する。
- ・ボランティア活動の意義を学生へ説明し参加を促す。
- ・学期毎に学生に対し身だしなみ、マナー、言葉遣いにおける目標を列挙させる。
- ・身だしなみ、マナー、言葉遣いにおけるチェックリストを作成し、学生の自己評価表として活用する。

【学科の魅力発信】

- ・病院および延岡市の3歳児検診への学生参加（見学）を実現する。各ゼミ単位で、試験的に各施設へ

の最低 1 回の見学を実現する。見学レポートを検証し、次年度への計画を模索する。

- ・ オープンキャンパスの内容を工夫し「楽しく親しみやすい視機能療法学科」を全面的に打ち出す。学科内で撮影した学生の写真を（1 年次～4 年全ての写真を厳選し、BGM と共に）スライドショーにして展示し、来学者に見ていただく。「百聞は一見にしかず」という視機能療法学科オリジナルの展示を展開する。H28 年度同様に、来学者一人ひとりに学生担当者が付いて、丁寧な案内を行う。学生は来学者の出身地に合わせた人選を行い、例えば佐伯からの見学者には佐伯出身の学生を当てるなどして、地元密着型のトークを炸裂させ、親近感を得る。
- ・ 学科ブログやフェイスブックをはじめとするメディアを活用した SNS 広報（現在も行っている）を充実する。学科ブログでは学生の学園生活を中心とし、Facebook では学科教員が実習や学園行事を頻繁に UP する。
- ・ 10 月 10 日の「目の愛護デー」に向けての視機能療法学科オリジナルイベントの準備に入る。
- ・ 学科教員の積極的な学会・講習会における発表にて九保大をアピールする。

(H30)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

平成 29 年度に作成した卒業研究のルーブリックを実際に運用して、指導および成績評価を行う。

実習講義（臨床実習事前指導）における工夫

- ・ アクティブラーニング[※]の検証及び改善。
※教員側より与えられる学習ではなく、グループ学習にて検査マニュアルを作成することを目標にアクティブラーニング（文献調査、グループ内討論、検査マニュアルの作成）を実施する。
- ・ 上級学生が teaching assistant として実習に参加し下級学生へ指導を行う。
- ・ 学生に対しオープンキャンパスへの参加協力を促し、展示品準備と来場者に対する説明を実践させる。

【基礎国語力増進への対策】

- ・ 平成 29 年度の検証結果に基づき、e-learning のユニット数や学習項目を見直す。学生間で基礎国語力の差が大きすぎる場合は、個々の基礎国語力に応じたユニット設定を検討する。
- ・ 入学前教育における e-learning 導入の有用性を検証し、方法を見直す。
- ・ 専門ゼミ I・II・III における文献抄読会の方法を見直す。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

- ・ 1～2 年次生は、H29 年度の実績を基に e-learning を用いた定期的な効果測定試験を確立し、更に細かくレベル別クラス（e-learning 目標設定）を構築する。（現段階では 3 クラスを想定している）
- ・ 3～4 年次生は、ゼミ単位での抄読会（日本語→英語）を行う。

【国家試験合格率アップへの対策】

- ・ 作問手段や水準が一定化された問題を用いて、作問方法の一部変更を行い、作問時間短縮による教員の教育以外のエフォート向上を狙う。
- ・ H28 年度に用いた国家試験対策マニュアルの見直しを行うことで、より充実した国家試験マニュアルの再構築を行う。

【学科教員の教育力アップの対策】

講義や試験問題の可視化

- ・ 講義内容や試験問題を相互に確認することで互いに高め合う。
- ・ ルーブリック評価法を使って授業レベルの向上と質を確保する。

研究活動の促進

- ・ 各専門分野別に論文抄読会の実施。
- ・ 学会や講習会への参加。

臨床技術の向上

- ・ 眼科病院での継続的な研修の参加。
- ・ 臨床経験を積む場、研究の場の 1 つとして、3 歳児眼科健診などに積極的に参加する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・ 教育設備を中心に拡充を図るために、文部科学省をはじめとして利用可能な補助金等があれば積極的に応募する。
- ・ 臨床現場で頻度の高い実習機器について質的、数的整備を実施する。
- ・ 新たな検査機器のメーカーのデモ導入を臨床実習事前指導プログラムの中に組み込む。
- ・ 学生の共用学習スペースに、学習資料や学習ツール（インターネットが使える PC 等）を充実させる。

【就職率アップへの対策】

- ・ H29 年度の取り組みを維持する。

- ・ 眼科医会などが主催する宮崎県下で行われる各種研修会や講習会で積極的にアプローチを行う。

【学生生活サポート対策】

- ・ 気楽に話せる環境を整備する。
- ・ 学生から寄せられた情報はガランを活用し情報共有を行い、どの教員も対応できるような体制を整える。

【学生指導力の向上】

- ・ 明るくたのしい学生生活の構築・・・落とさない、おどさない、かなしませない。・・・国試合格まで優しく、粘り強く指導。
- ・ 宮崎大学病院や県立病院への見学による視能訓練士へのモチベーション向上。
- ・ 基礎学力を上げ、学力不足を解消する。
- ・ 超早期からの本人および保護者への連絡対応

【社会人としてのマナー対策】

- ・ 教員側から積極的に挨拶を行う。
- ・ 誤った言葉の遣い方があった際はその都度注意する。
- ・ 検査実習などにおいて丁寧な言葉遣いがあった際は良かった点を指摘する。
- ・ 実習室使用ルールおよび実習生としてのマナーの指導を1年次より実施する。
- ・ 臨床実習事前指導では医療従事者における接遇マナーの専門書を用い、事例を交えた指導を実施する。
- ・ ボランティア活動の意義を学生へ説明し参加を促す。
- ・ 学期毎に学生に対し身だしなみ、マナー、言葉遣いにおける目標を列挙させる。
- ・ 身だしなみ、マナー、言葉遣いにおけるチェックリストの検証を行い改善する。チェックリストは学生の自己評価表として活用する。

【学科の魅力発信】

- ・ 社会で活躍する卒業生の動向（全国で活躍する卒業生現状報告など）を、学科季刊誌「視季彩」、学科ブログ、学科 Facebook で取り上げ、保護者・在学生・卒業生への満足度 UP をねらう。
- ・ 病院および延岡市の3歳児検診への学生参加（見学）を実現する。各ゼミ単位で、試験的に各施設への見学を定着化する。ゼミ単位でも、キャリア教育の一環としても、現場での視能訓練士像を学生に提示することで、視能訓練士としての「やりがい」、「仕事の責任」を生そのまま見学させ、キャリア教育を加速させると共に、病院看護師、クラーク、医師、患者へのアピールをねらう。
- ・ オープンキャンパスのアンケート結果を基に、より視覚に訴える内容を工夫し、楽しく親しみやすい視機能両方学科を全面的に打ち出す。学科内での学生の動画を（1年次～4年全ての動画を厳選し）展示し、来学者に見ていただく。「百聞は一見にしかず」という視機能療法学科オリジナルの展示を展開する。来学者一人ひとりに学生担当者が付いて、丁寧な案内を行う。学生は来学者の出身地に合わせた人選を行い、例えば佐伯からの見学者には佐伯出身の学生を当てるなどして、地元密着型のトークを炸裂させ、親近感を得る。
- ・ 学科ブログやフェイスブックをはじめとするメディアを活用した SNS 広報（現在も行っている）を充実する。現在の閲覧者は卒業生、在校生が多いため、拡散のために、出来る事なら、Facebook に用いる「広報用予算」を、学科予算または広報予算にて認可していただきたい。学科ブログでは学生の学園生活を中心とし、Facebook では学科教員が実習や学園行事を頻繁に UP する。
- ・ 10月10日の「目の愛護デー」に向けての視機能療法学科オリジナルイベントを実施する。ココレッタ延岡の中の地域連携センターを有効活用し、地域密着型の大学・学科である事を強調したい。学科教員、学生によるボランティアや講義を実現し、「延岡に九保大があって本当に良かった」を、地域の方に体感していただき、イベントでの体験談をご自宅に帰られてから、ご家族やご子息に熱く語ってもらおう。
- ・ 学科教員の積極的な学会・講習会における発表にて九保大をアピールする。

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「高度なチーム医療」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につける
学科からの メッセージ	臨床工学科の教育目標は、臨床工学技士国家試験合格のもと先にあります。医療の高度化が進み、多くの医療機器が臨床で使用されています。いまや医療現場には、工学知識を持つ臨床工学技士がますます重要になっています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、チーム医療の一員として医師の指示のもとで生命維持管理装置の操作や、自らの判断で医療機器の保守・管理を行うなど、高度なチーム医療を支えるのみならず、患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。また本学は、タイを中心としたASEAN諸国の大学ならびに病院との交流があり、毎年、臨床工学科の施設を中心とした研修を受け入れております。そのため海外の方との交流を通じ、グローバルな視点も養うことができます。
教育力 (ブランド)	<p>(H28)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】 従来の卒業研究指導法に加え、卒業研究指導時ならびに卒業研究発表会で使用するルーブリック表を作成し、これを運用する。学科教員全員でルーブリック表の内容とその運用について検証を行い、必要があれば改訂を行う。また、一部の卒業研究については、研究成果を積極的に国内外での学術大会において発表させる。次年度以降は、ルーブリック表をもとに卒業研究指導を行い、学生個人の考察力の向上を図る。 また、アクティブラーニングについては、従来からPBL（project/problem based learning）型、学生によるプレゼンテーション型の講義などを取り入れているが、これらの教科に加え、他の教科においても導入可能であるかを学科教員で協議する。 さらに、4年次生の一部がタイの大学との交換留学制度を活用し、外国における価値観の多様性に触れることで、自ら考える力をアップさせる。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】 必修科目の講義で、e-learningを活用できる科目があるかを学科教員全員で検討する。 担当者は、適用時間数に合わせて学生に学習させる項目を選択する。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】 医用工学系で必要となる計算力向上のため、e-learning「数学」を積極的に導入できそうな必須科目の選択と、利用時間数の増加を検討する。 国際化に対応できる語学の基礎を確立するため、e-learning「英語」によるリメディアル教育の導入を検討する。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】 国家試験過去問題の活用方法の検討 従来から4年生に対して実施している国家試験対策模試において、前期で各自の弱点科目を見つけさせ、前期終了後にこれを学習させる。後期の国家試験対策模試で学習状況、達成度を分析し、12月からの集中対策に活かす。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 最新医療の知識、技術を習得するため、関連学会や各種セミナーへ学科教員が参加できるような体制を構築する。 また、他校や臨床現場より教員を招聘し、相互に講義手法についての意見交換を行う。 さらに、タイの大学との教員交流により多角的な教育力アップを図る。</p> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】 臨床工学技士の養成校としては、国内に類を見ない設備を有している。学科開設から9年目を迎えているため、教育に必要不可欠な医療機器等の更新を優先順位の高いものから計画的に執行する。</p> <p>【就職率アップへの対策】 現状の就職率は100%であるため、これを維持する。</p> <p>【学生生活サポート対策】 毎年8月に開催されるオープンキャンパスの前日に、学科で保護者懇談会を開催している。本懇談会では保護者と教員が直接問題点を話し合っており、これを通じて、保護者と教員が連携し、学生生活のサポートに活かす。 心身面に不調を来した学生が、学内の健康管理センターを利用するシステムを構築する。</p>

【学生指導力の向上】

- ・基礎学力を上げ、学力不足を解消する。
- ・成績不振の学生に対して、個別に学習指導、アドバイスを行えるような体制を構築しており、さらなる充実を図る。
- ・学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

当学科では3年生に対して、ソーシャルマナーインストラクタの資格を有する外部講師を招聘して、ソーシャルマナー講座を受講させている。そこで段階的にマナーを身に付けさせることを目的として、これを1年次、2年次にも取り入れることが可能であるかを学科教員で検討、協議する。

【学科の魅力発信】

近隣の高校へ学科の魅力を発信するため、高校ごとに大学（施設）見学会を立案する。

入試広報室と協議の上、在学生、卒業生の出身校を中心に高校訪問を行う。

(H29)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

平成28年度に作成したルーブリック表をもとに、卒業研究の指導、評価を行う。

指定された科目にアクティブラーニング（PBL型、学生によるプレゼンテーション型の講義）を取り入れる。

平成28年度に引き続き、4年次生の一部にタイの大学との交換留学制度を利用する機会を与え、これを通じて自ら考える力をアップさせる。

【基礎国語力増進への対策】

平成28年度の検討をもとに、e-learningを活用する。

その効果（基礎国語力増進）について評価を行い、時間数や学習項目について再検討を行う。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

平成28年度の検討をもとに、e-learning「数学」、「英語」を積極的に導入し、その効果を検討する。

この結果をもとに、次年度の時間数や学習項目について検討を行う。

【国家試験合格率アップへの対策】

平成28年度に引き続き、4年生に対して実施している国家試験対策模試において、前期で各自の弱点科目を見つけさせ、前期終了後にこれを学習させる。後期の国家試験対策模試で学習状況、達成度を分析し、12月からの集中対策に活かす。

【学科教員の教育力アップの対策】

平成28年度に引き続き、以下の事項を遂行する。

最新医療の知識、技術を習得するため、関連学会や各種セミナーへ学科教員が参加し、これを他の学科教員や学生教育にフィードバックさせる。

他校や臨床現場より教員を招聘し、相互に講義手法についての意見交換を行う。

さらに、タイの大学との教員交流により多角的な教育力アップを図る。

【教育施設のレベルアップのための対策】

教育に必要な不可欠な医療機器等の更新を優先順位の高いものから執行する。

【就職率アップへの対策】

平成28年度の就職率の結果を踏まえ、就職率100%であれば、これを維持する。

【学生生活サポート対策】

平成28年度に引き続き、オープンキャンパスの前日に、学科で開催している保護者懇談会を通じて、保護者と教員が連携し、学生生活のサポートに活かす。

心身面に不調を来した学生が、学内の健康管理センターを気軽に利用できる環境を整える。

【学生指導力の向上】

- ・基礎学力を上げ、学力不足を解消する。
- ・平成28年度に引き続き、成績不振の学生に対する個別の学習指導、アドバイスを充実させる。
- ・学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

1～3年生に対して、段階的にソーシャルマナー講座を受講させ、その効果を検討する。

【学科の魅力発信】

近隣の高校へ学科の魅力を発信するため、高校ごとに大学（施設）見学会を立案する。

入試広報室と協議の上、在学生、卒業生の出身校を中心に高校訪問を行う。

(H30)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

平成 29 年度の結果をもとに、内容の協議と改善を行う。

【基礎国語力増進への対策】

平成 29 年度の結果をもとに、e-learning 利用の時間数や学習項目の変更を行う。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

平成 29 年度の結果をもとに、e-learning「数学」、「英語」を利用する時間数や学習項目の変更を行う。

【国家試験合格率アップへの対策】

前年度に引き続き、4 年生に対して実施している国家試験対策模試において、前期で各自の弱点科目を見つけさせ、前期終了後にこれを学習させる。後期の国家試験対策模試で学習状況、達成度を分析し、12 月からの集中対策に活かす。

【学科教員の教育力アップの対策】

前年度に引き続き、以下の事項を遂行する。

最新医療の知識、技術を習得するため、関連学会や各種セミナーへ学科教員が参加し、これを他の学科教員や学生教育にフィードバックさせる。

他校や臨床現場より教員を招聘し、相互に講義手法についての意見交換を行う。

さらに、タイの大学との教員交流により多角的な教育力アップを図る。

【教育施設のレベルアップのための対策】

平成 29 年度に引き続き、教育に必要不可欠な医療機器等の更新を優先順位の高いものから執行する。

【就職率アップへの対策】

平成 29 年度の就職率の結果を踏まえ、就職率 100%であれば、これを維持する。

【学生生活サポート対策】

前年度に引き続き、オープンキャンパスの前日に、学科で開催している保護者懇談会を通じて、保護者と教員が連携し、学生生活のサポートに活かす。

また心身面に不調を来した学生が、学内の健康管理センターを気軽に利用できる環境をさらに整える。

【学生指導力の向上】

- ・基礎学力を上げ、学力不足を解消する。

- ・平成 29 年度に引き続き、成績不振の学生に対する個別の学習指導、アドバイスを充実させる。

- ・学生の適正に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

平成 29 年度に引き続き、1～3 年生に対して段階的にソーシャルマナー講座を受講させ、その効果を検討する。

【学科の魅力発信】

平成 29 年度に引き続き、以下の事項を執り行う。

近隣の高校から教員、学生を招いて施設見学会を実施する。

入試広報室と協議の上、在学生、卒業生の出身校を中心に高校訪問を行う。

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「適正で安全な薬物療法」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につける
学科からの メッセージ	薬学科の教育目標は、薬剤師国家試験合格のもっと先にあります。現在、薬物療法の高度化により、チーム医療の中で「薬の専門家」としての薬剤師の重要性がますます高まっています。また、現在の薬剤師は患者さんのフィジカルアセスメント（実際に患者さんの身体に触れながら、薬の効果や副作用の早期発見を行うこと）などを実施して最良の薬物療法を医師に提案することが求められています。本学では、入学後の基礎科目から5,6年次の卒業研究までを通して、広い視野で自ら考え、適正で安全な薬物療法を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。
教育力 (ブランド力)	<p>(H28)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】 卒業研究のルーブリックを作成、模擬的に運用し、教務委員会に提出する。 学科教員全員でその評価につき検証を行う。この表を次年度以降は成績評価に用いることを学生に周知する。 検証結果に基づき、ルーブリック表を改正する。次年度以降ルーブリック表自体を指導マニュアルとして用いる。 教務委員会で PBL を導入するのに適切な科目を検討する（PBLを増やすため）。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】 必修科目（理科系作文法Ⅰ・Ⅱ）の講義で e-learning を積極的に活用し、有用性を検討する。 教務委員会で、担当者および適切な時間数を検討する。 担当者は、適用時間数に合わせて学生に学習させる項目を吟味する。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】 教務委員会で、既存のリメディアル科目の科目構成および担当者の見直しを行う。 教務委員会で、e-learning「数学」・「英語」を導入できそうな科目・時間数を検討（新規に追加）する。 担当者は、学習させる項目を検討する。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】 国家試験対策委員会で効果的な対策を検討し、その効果を評価する。 単位認定（卒業判定を含む）の厳格な実施を明示する。 成績下位者の出席管理を厳格化し、出席不良者は卒業判定に反映させる。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 定期試験の問題を教員間で共有するシステムを構築する。（過去問の過度な再利用の抑制） 教員を期限付きで適切な医療施設にて研修させ、最新の業務内容等を大学にフィードバックする。 博士号未取得者については一定年数以内に取得するよう学科長から指導する。</p> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】 文科省・厚労省の補助金情報を収集し、学内で採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募を促す委員会を設置する。 空調が整ったブラウジングルームの設置を検討する。</p> <p>【就職率アップへの対策】 キャリアサポートセンターを積極的に活用する仕組みを構築する。 各教員の所有する求人情報の集約システムを構築する。</p> <p>【学生生活サポート対策】 悩みのある学生に対するカウンセリングの仕組みを充実させる。（学科外の相談窓口も積極的に活用） 学生に、うつ病の初期症状を理解させ、自分自身で早めに心療内科を受診するように啓発活動を行う。</p> <p>【学生指導力の向上】 ・学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】 教員からの積極的な挨拶を促す。 指導者、先輩、同輩、後輩に対する適切な態度を提示し、チューター・講座からの指導を促す。 問題行動があった場合は、即時個別指導を行う。</p>

【学科の魅力発信】

学科教育力の評価を行うとともに、広報活動の工夫を提案する。
 社会で活躍している卒業生の情報を収集する。
 薬剤師の将来の展望をまとめる。
 それらの情報および既存の情報（現在行っている広報材料）を、西日本を中心に紹介する。

(H29)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

平成 28 年度に作成したルーブリック表を実際に運用して学生の「卒業研究」の成績評価を行う。
 指定された科目に PBL を導入する。

【基礎国語力増進への対策】

平成 28 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

新規に構成したリメディアル科目を運用し、その効果を検討する。
 必修科目の講義で e-learning を積極的に活用し、有用性を検討する。
 担当者は、適用時間数に合わせて学生に学習させる項目を吟味する。

【国家試験合格率アップへの対策】

平成 28 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

【学科教員の教育力アップの対策】

定期試験問題共有システムを活用し、その効果を検討する。
 教員を期限付きで適切な医療施設にて研修させ、最新の業務内容等を大学にフィードバックする。
 博士号未取得者については一定年数以内に取得するよう学科長から指導する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

文科省・厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。
 空調が整ったブラウジングルームの設置に関する検討結果をもとに、対処する。

【就職率アップへの対策】

キャリアサポートセンターを積極的に活用する仕組みを構築する。
 各教員の所有する求人情報を集約し活用する。

【学生生活サポート対策】

継続して悩みのある学生に対するカウンセリングの仕組みを充実させる。（学科外の相談窓口も積極的活用）
 事例をまとめて教員全員に周知し、情報の共有を図る。
 継続して学生にうつ病の初期症状を理解させ、自分自身で早めに心療内科を受診するように啓発活動を行う。

【学生指導力の向上】

・学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員からの積極的な挨拶を促す。
 前年度提示の、指導者、先輩、同輩、後輩に対する適切な態度を検証し、チューター・講座からの指導を促す。
 問題行動があった場合は、即時個別指導を行う。

【学科の魅力発信】

学科教育力の評価を継続するとともに、広報活動の更なる工夫を提案する。
 社会で活躍している卒業生の情報を収集する。
 薬剤師の将来の展望を検証する。
 それらの情報および既存の情報（現在行っている広報材料）を、西日本を中心に紹介する。

(H30)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

【基礎国語力増進への対策】

平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

【国家試験合格率アップへの対策】

平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

【学科教員の教育力アップの対策】

平成 29 年度の検討結果をもとに、内容を改善する。

教員を期限付きで適切な医療施設にて研修させ、最新の業務内容等を大学にフィードバックする。
博士号未取得者については一定年数以内に取得するよう学科長から指導する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

文科省・厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。
空調が整ったブラウングルールの設置に関する前年度対処結果をもとに、発展させる。

【就職率アップへの対策】

キャリアサポートセンターを積極的に活用する仕組みを発展させる。

各教員の所有する求人情報の集約・活用を発展させる。

【学生生活サポート対策】

継続して悩みのある学生に対するカウンセリングの仕組みを充実・発展させる。

事例をまとめて教員全員に周知し、情報の共有の充実を図る。

継続して学生にうつ病の初期症状を理解させ、自分自身で早めに心療内科を受診するように啓発活動を行う。

【学生指導力の向上】

・学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員からの積極的な挨拶を促す。

指導者、先輩、同輩、後輩に対する適切な態度を提示し、チューター・講座からの指導を促す。

問題行動があった場合は、即時個別指導を行う。

【学科の魅力発信】

学科教育力の向上を検証するとともに、広報活動の更なる工夫を提案する。

社会で活躍している卒業生の情報を収集する。

薬剤師の将来の展望を検証する。

それらの情報および既存の情報（現在行っている広報材料）を、西日本を中心に紹介する。

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「薬に強い動物・動物性食品の専門家」として人々の幸せをプロデュースできる能力を身につける
学科からの メッセージ	動物生命薬科学科の教育目標は、動物看護師統一認定試験（将来の国家試験）合格や実験動物1級技術者認定試験合格のもと先にあります。現在、“地域創生”に至る国策の一つとして、産業動物や食の安全とそれに基づく関連産業の発展が求められています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、動物、医薬品および動物性食品に関連した「薬に強い家畜防疫員」、「薬に強い実験動物技術者」、「動物・薬・食に詳しい学芸員」、「食品衛生管理者・食品衛生監視員」として活躍できる専門知識を習得すると共に、さらに人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。
教育力 (ブランドカ)	<p>(H28)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】 飼育当番及び卒業研究について、問題解決能力を高める指導方法により学生の思考能力を高める。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】 e-learning（補講）及び科目「文学・人間・社会Ⅰ、Ⅱ」により学生の国語力を高める。 【国語以外のリメディアル教育への対策】 数学は e-learning（補講）により、英語は1、2年次科目の到達度別クラス編成（補講）により、一般教養は「基礎実習Ⅰ、Ⅱ」の補講により、リメディアル教育を実施する。</p> <p>【資格試験合格率アップへの対策】 認定動物看護師及び実験動物1、2級技術者の資格試験対策について全て対策が記載されている「学修マニュアル」に従って実施する。動物看護師統一認定試験受験対策については、新たに作成したロードマップに従って実施する。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 学科FD（学科教員研修会）を定期的実施する。この年度のテーマはリメディアル教育とする。授業に関する相互見学を勧奨する。</p> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】 引き続き、競争的外部資金に全教員が応募する。 フィリピン大学認定専門科目に関する施設設備を検討する。</p> <p>【就職率アップへの対策】 キャリア形成ポートフォリオ（本学科は「動物生命薬科学科いぬノート」）に従い、担当教員及びチューターとの面談指導等を行う。 本学科の学生の多くがインターンシップに参加しているが、この年度では、インターンシップ先を再検討する。</p> <p>【学生生活サポート対策】 一般に、チューターと担当学生が参加する研究室会や個別面談、又はこれに代わる方法により、チューターへの学生に対する指導を実施する。 特定の学生には、保護者とのコミュニケーションを取りながら、健康管理センターを活用して学科長及び各チューターが指導する。</p> <p>【学生指導力の向上】 基礎学力を上げ、学力不足を解消する。 学生がもつ諸問題に対して、保護者とのコミュニケーションを取りながら、学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】 教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。 各学外実習の事前指導及び飼育実習により実施する。</p> <p>【学科の魅力発信】 留学制度及び就職や資格試験の実績を広報できるだけの教育を継続する。 この年度においては、野生動物教育プログラムを開始し、広報に活用してもらう。</p>

また、動物看護師国家資格化に関する活動を継続して行う。

(H29)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

飼育当番及び卒業研究について、問題解決能力を高める指導方法により学生の思考能力を高める。

【基礎国語力増進への対策】

e-learning により学生の国語力を高める。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

数学は e-learning (補講) により、英語も e-learning (補講) により、一般教養は「基礎実習Ⅰ、Ⅱ」の補講により、リメディアル教育を実施する。

【資格試験合格率アップへの対策】

認定動物看護師及び実験動物 1、2 級技術者の資格試験対策について全て対策が記載されている「学修マニュアル」に従って実施する。

【学科教員の教育力アップの対策】

学科 FD (学科教員研修会) を定期的に実施する。この年度のテーマは卒業研究とする。授業に関する相互見学を勧奨する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

引き続き、競争的外部資金に全教員が応募する。
この年度では、フィリピン大学認定専門科目に関する施設設備を実際に入手する。

【就職率アップへの対策】

キャリア形成ポートフォリオ (本学科は「動物生命薬科学科いぬノート」) を改正するとともにこれに従い、担当教員及びチューターの面談指導等を行う。
この年度では、学生を実際にインターンシップに送ることによりインターンシップ先を確保する。

【学生生活サポート対策】

一般に、チューターと担当学生が参加する研究室会や個別面談、又はこれに代わる方法により、チューターの学生に対する指導を実施する。
特定の学生には、保護者とのコミュニケーションを取りながら、健康管理センターを活用して学科長及び各チューターが指導する。

【学生指導力の向上】

基礎学力を上げ、学力不足を解消する。
学生がもつ諸問題に対して、保護者とのコミュニケーションを取りながら、学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。
各学外実習の事前指導及び飼育実習により実施する。

【学科の魅力発信】

留学制度及び野生動物教育プログラムを継続するとともに、就職や資格試験の実績を広報できるだけので教育を実施する。
また、動物看護師国家資格化に関する活動を継続して行う。

(H30)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

飼育当番及び卒業研究について、問題解決能力を高める指導方法により学生の思考能力を高める。

【基礎国語力増進への対策】

e-learning により学生の国語力を高める。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

数学は e-learning (補講) により、英語は 1、2 年次科目の到達度別クラス編成 (補講) により、

一般教養は「基礎実習Ⅰ、Ⅱ」の補講により、リメディアル教育を実施する。

【資格試験合格率アップへの対策】

認定動物看護師及び実験動物 1、2 級技術者の資格試験対策について全て対策が記載されている「学修マニュアル」に従って実施する。

【学科教員の教育力アップの対策】

学科 FD（学科教員研修会）を定期的実施する。この年度のテーマは専門科目とする。授業に関する相互見学を勧奨する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

引き続き、競争的外部資金に全教員が応募する。

【就職率アップへの対策】

キャリア形成ポートフォリオ（本学科は「動物生命薬科学科いぬノート」）に従い、担当教員及びチューターの面談指導等を行う。
インターンシップを学生に勧奨する。

【学生生活サポート対策】

一般に、チューターと担当学生が参加する研究室会や個別面談、又はこれに代わる方法により、チューターの学生に対する指導を実施する。
特定の学生には、保護者とのコミュニケーションを取りながら、健康管理センターを活用して学科長及び各チューターが指導する。

【学生指導力の向上】

基礎学力を上げ、学力不足を解消する。
学生がもつ諸問題に対して、保護者とのコミュニケーションを取りながら、学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。
各学外実習の事前指導及び飼育実習により実施する。

【学科の魅力発信】

留学制度及び野生動物教育プログラムを継続するとともに、就職や資格試験の実績を広報できるだけの教育を実施する。
また、動物看護師国家資格化に関する活動を継続して行う。

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「がん診断・医学検査のスペシャリスト」として患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につける
学科からの メッセージ	<p>生命医科学科の教育目標は、細胞検査士試験や臨床検査技師国家試験合格のもと先にあります。本学科は、高度な医学的知識・技術を修得し医学研究および医療現場で貢献できる人材を養成します。がんの早期発見に大きな役割をはたす細胞検査士は、在学中の資格取得を目指します。臨床検査技師は、血液検査、分析化学検査、免疫検査、血液型・輸血検査、微生物検査、遺伝子検査、病理検査、さらに心電図、超音波、他の生理機能検査を病院などで行う医療専門職です。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、高度なチーム医療を支える専門知識および高度な技術を駆使して患者さん、患者さんのご家族の幸せをプロデュースできる能力(知識・技能・思考力・態度)を身につけることができます。</p>
教育力 (ブランドカ)	<p>(H28)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】 卒論評価用ルーブリックの策定を検討し、完成年度に向けて実施計画を立案する。具体的には、卒論評価用ルーブリックの作成、卒業評価用ルーブリックに基づいた卒業研究指導マニュアルの作成、卒業研究発表会の計画立案など。 実習または演習科目で可能な場合は積極的にアクティブラーニングを導入する。アクティブラーニング実施可能科目の選考(主導;科目担当者)し、アクティブラーニングを導入した科目は効果的なSGD(small group discussion)を計画し、グループごとに成果発表をさせる。なお、アクティブラーニング導入に際しては、系統講義の充実が不可欠となる。 学生が自ら学ぶための様々なアイデアをまとめ、具体的な指針案を策定する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】 講義・実習で学生にレポートを積極的に課すことで文章を書かせる。それらについては、必ず、教員が個々のレポートを添削し、フィードバックする。 e-learning「国語」を基礎科目「物理学」の中で活用させ、必要に応じた個別指導を実施する。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】 基礎科学、選択科目の受講モデルを学生に提示し、それを推奨する。担当教員が必要に応じた個別指導を実施するとともに、上級生から下級生への学生による学習サポート体制を構築する。 e-learning「数学」を基礎科目「物理学」の中で活用させ、必要に応じた個別指導を実施する。 e-learning「英語」を基礎科目「英語 I」の中で活用させ、必要に応じた個別指導を実施する。化学の基礎知識、基礎計算のリメディアル教育が不可欠であり、それらを基礎科目「化学」および「生化学」などで積極的に実施する。担当教員が必要に応じた個別指導を実施するとともに、上級生から下級生への学生による学習サポート体制を構築する。生物学の基礎知識のリメディアル教育が不可欠であり、それらを基礎科目「生物学」および「生化学」などで積極的に実施する。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】 国家試験過去問題の活用方法の検討 国家試験対策の実行プランを検討し、完成年度に向けて実施計画を立案する。国家試験対策のスケジュールを学生に提示し、それを理解させ遂行させる。特に、第1～3期生は臨床検査技師国家試験合格率100%を実現すめための具体的方策を考える。学生に自身の明るい将来イメージを、ことあるごとに提示していくことが重要で、入学直後から生命医科学科の学習指針および進級要件などを学生に明示し、就学4年間のアウトラインを共有する。 国家試験当日、試験後の分析・評価プランを検討し、完成年度に向けて実施計画を立案する。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 生命医科学科教員の教育力の資質向上に関する指針を検討し、策定する。自身の専門学会への出席または講習会、研修会への積極的な参加を通して、自身の研鑽を積むとともに、それを学生教育に還元することを徹底する。 学科教員の実施する講義・実習への見学の推進をはかる。自分自身の授業のやり方に執着せず、改善すべき点が明らかになった時点で、積極的に他教員の授業で見習う点を取り入れる。学科FDという枠で実施するのであれば、講義・実習の工夫を定期的に発表しあい、それらを学科教員間で共有する。 個々の科目の定期試験問題を教員間で共有する。個々の科目の学生のフィードバック(アンケートほか)を学科教員間で共有する。特定教員を期限付きで適切な医療施設または研究施設ほかで研修させる。</p> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p>

文科省・厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。新設学部なので、計画的に図書の実を充実を図る必要がある(複数冊購入も必要)。学生の自習室を確保する。

【就職率アップへの対策】

完成年度に向けて、キャリアサポートセンターと綿密な連携関係を構築する仕組みを構築する。完成年度に向けて、宮崎県、九州地区、西日本の医療施設に、九州保健福祉大学生命医科学部生命医科学科の卒業生(見込み)をアピールする方策を立案し、計画的に実施する。早期実施が可能な項目を洗い出し、できることから実施する。

【学生生活サポート対策】

生命医科学科の学生生活の指針を策定する。4月の新入生ガイダンスで、入学生に生命医科学科の学生生活の指針を提示し、それを徹底する。学生課、教務課、健康管理センターほかとの連携をはかる。チュータを中心に学科教員全員が個々の学生の動向に注意を払う。定期的に学生に対して学科独自のアンケートを実施して、問題点の洗い出しを行い、可能な限り、善処する。

学生に健康管理センターほかの相談窓口を周知徹底する。4月の新入生ガイダンスで、メンタルヘルス(メンタル症状)を紹介する時間を設ける。学科教員が積極的に生命医科学科の学生に声をかけるようにする。

【学生指導力の向上】

基礎学力を上げ、学力不足を解消する。

地区別懇談会を積極的に利用して、積極的に学生の実情を保護者と共有する。

チュータまたは学科教員が、学生からよく話を聞くことを徹底する。また、保護者と連絡をとり、情報と状況を共有した上で、その学生にとって最善の解決方法を模索する。

学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

4月の新入生ガイダンス時またはそれに変わる時間に、生命医科学科の全学生を対象として社会人としてのマナー対策の講習会を企画し、開催する。外部講師を選考し、講演を依頼する。具体的には、基本マナー、挨拶の仕方、敬語の使い方、メールの書き方、お礼状の書き方、呼称、話の聞き方ほか。

マナー対策講習会に基づいて、日々の生活の中で、各専任教員が気がついた時に個々の学生に注意する。

【学科の魅力発信】

宮崎県延岡市の九州保健福祉大学の生命医科学科で、4年間で細胞検査士と臨床検査技師のダブルライセンス取得ができることを九州・沖縄地区～日本全国の中高校生に周知させる方策を模索する。入試広報と綿密に連携し、学科単位での広報活動を充実させる。

高校訪問の年間計画を策定する。①延岡市内および近郊の高校への情報提供・説明を充実させる。②宮崎県内の高校への情報提供・説明を充実させる。③宮崎県近郊の九州各県への情報提供・説明を充実させる。

生命医科学科を紹介するレジメまたはチラシを作成し、関係各所に配布する。出前講義を積極的に行い、高校生の臨床検査技師および細胞検査士の認知度を向上させる。細胞検査士、臨床検査技師の明るい将来性を提示できる展望のアイデアを策定する。地区別懇談会を積極的に利用して、学生サポートの実情を保護者にアピールする。生命医科学フォーラムなどの開催も考慮する。

(H29)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

(H28)2016年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【基礎国語力増進への対策】

(H28)2016年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

(H28)2016年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【国家試験合格率アップへの対策】

(H28)2016年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【学科教員の教育力アップの対策】

(H28)2016 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

(H28)2016 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【就職率アップへの対策】

(H28)2016 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。キャリアサポートセンターとの綿密な連携関係のもと学生への就職説明会他を開催する。宮崎県、九州地区、西日本の医療施設に、九州保健福祉大学生命医科学部生命医科学科の卒業生(見込み)のアピールを計画的に実施する。

【学生生活サポート対策】

(H28)2016 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【学生指導力の向上】

基礎学力を上げ、学力不足を解消する。

(H28)2016 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

(H28)2016 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【学科の魅力発信】

(H28)2016 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

(H30)

【学生自ら考える力のアップへの対策】

(H29)2017 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【基礎国語力増進への対策】

(H29)2017 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】

(H29)2017 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【国家試験合格率アップへの対策】

第 1 期生が細胞検査士試験、臨床検査技師国家試験を受験する完成年度を迎える。4 年生に国家試験合格率向上を目指した対策プランを実施する。国家試験当日、試験後の分析・評価プランを実施する。臨床検査技師国家試験の問題検討会を実施し、その傾向を理解する。各プランの運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【学科教員の教育力アップの対策】

(H29)2017 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

(H29)2017 年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【就職率アップへの対策】

第1期生が就職活動、進学活動を行う完成年度を迎える。キャリアサポートセンターとの綿密な連携関係のもと、学生への就職サポートを実行する。宮崎県、九州地区、西日本の医療施設に、九州保健福祉大学生命医科学部生命医科学科の卒業生(見込み)のアピールを計画的に実施する。次年度、5～7月に第1期生の就職先訪問を実施計画を策定する。

(H29)2017年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【学生生活サポート対策】

(H29)2017年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

卒業生の情報管理を計画し実施する。併せて、生命医科学科の同窓会の立ち上げを支援する。具体的には、同窓会長の選出、卒業生の名簿管理(就職先と連絡先など)、活動計画の策定、卒業記念品(卒業アルバムなど)の寄贈他など。

【学生指導力の向上】

基礎学力を上げ、学力不足を解消する。

(H29)2017年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。

(H29)2017年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

【学科の魅力発信】

(H29)2017年の実施計画を継続する。

計画の運用と結果、評価を加味して問題点を見出し、それを改善する。

卒業研究発表会またはそのダイジェスト版を高校生に公開とし、10～11月の日曜日などに開催する。

延岡近郊の高校に重点的に案内し、参加を促す。